

愛知医科大学学報



創立50周年記念樹として令和4年に植栽された橘の木の成長

＝ 第175号 ＝

2024.7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

令和5年度愛知医科大学決算……………	5
教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）	
事業募金のご協力のお願い……………	8
洋上救急業務の協力に関する協定締結……………	10
教授就任インタビュー……………	17
看護学部キャンドルセレモニー挙行……………	21
救急・災害管理棟の完成及びTACU病棟の運用開始…	25
尾張旭・長久手市議による病院視察実施……………	27
令和6年能登半島地震活動報告会開催……………	28
海外研修派遣研修記……………	34
Smile ～スマイル～ ……………	49

令和7年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程					
区 分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
学校推薦型選抜（公募制）	約20名※1	11/1～11/8 [消印有効]	11/23	本 学	12/5
学校推薦型選抜 （愛知県地域特別枠A方式）	約5名※2				
国際バカロレア選抜	若干名				
一般選抜	約70名	12/2～1/8 [消印有効]	第1次試験 1/21	名古屋，東京 大阪，福岡	1/30
			第2次試験 2/5・6 （いずれか希望する日）	本 学	2/13
大学入学共通テスト 利用選抜	約15名	12/2～1/17 [消印有効]	第1次試験 1/18・19 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	2/13
			第2次試験 2/20	本 学	2/27
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）	約5名※2	12/2～2/26 [消印有効]	第1次試験 1/18・19 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 試験会場	3/4
			第2次試験 3/10	本 学	3/13

※1 国際バカロレア選抜若干名を含む。

※2 愛知県地域特別枠はA方式・B方式合わせて10名を選抜。

◆入試科目・配点・時間						
区 分	出題教科	選考方法及び出題科目※1	配 点	時 間		
学校推薦型選抜（公募制） （愛知県地域特別枠A方式）	小論文		5段階評価	60分		
	基礎学力試験 （数学）	『数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学A，数学B（数列）， 数学C（ベクトル，平面上の曲線と複素数平面）』	100点	60分		
	基礎学力試験 （外国語）	『英語コミュニケーションⅠ，英語コミュニケーションⅡ， 英語コミュニケーションⅢ，論理・表現Ⅰ，論理・表現Ⅱ， 論理・表現Ⅲ』	100点	60分		
	面接（個人面接）		5段階評価	—		
国際バカロレア選抜	書類選考・適性検査・面接（個人面接）					
一般選抜	第1次試験	理 科	『物理基礎，物理』，『化学基礎，化学』，『生物基礎，生物』 の3科目のうち2科目選択	200点 （各100点）	100分	
		数 学	『数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学A，数学B（数列）， 数学C（ベクトル，平面上の曲線と複素数平面）』	150点	80分	
		外国語	『英語コミュニケーションⅠ，英語コミュニケーションⅡ， 英語コミュニケーションⅢ，論理・表現Ⅰ，論理・表現Ⅱ， 論理・表現Ⅲ』	150点	80分	
	第2次試験	小論文		5段階評価	60分	
		面接（個人面接）		5段階評価	—	
		第1次試験 （大学入学共通テスト）	国 語	『国語』（近代以降の文章のみ利用）※2	100点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり
数 学	『数学Ⅰ，数学A』，『数学Ⅱ，数学B，数学C』		200点 （各100点）			
理 科	『物理』，『化学』，『生物』の3科目のうち 2科目を選択		200点 （各100点）			
外国語	『英語（リーディング・リスニング）』※3		200点			
第2次試験	面接（個人面接）		5段階評価	—		
大学入学共通テスト利用選抜 （愛知県地域特別枠B方式）	試験内容は大学入学共通テスト利用選抜と同様					

※1 旧教育課程履修者に配慮して出題します。詳しくは学生募集要項を参照して下さい。

※2 「国語」は110点を100点に換算します。

※3 「英語」はリーディング100点を160点に，リスニング100点を40点に換算します。

令和7年度看護学部看護学科学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区	分	募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
学校推薦型選抜	指定校制	約15名	10/15～10/29 [消印有効]	11/9	本学	11/19
	公募制	約20名				
社会人等特別選抜		若干名				
一般選抜		約45名	12/16～1/14 [消印有効]	1/26		2/5
大学入学共通テスト併用型選抜		約5名	12/16～1/24 [消印有効]	一般選抜及び大学入学 共通テスト日程参照	本学及び大学入学共通 テスト受験会場	2/19
大学入学 共通テスト 利用選抜	A方式	約10名		1/18・19 大学入学共通テスト試験日	大学入学共通テスト 受験会場	
	B方式	約5名				
◆入試科目・配点・時間						
区分		出題教科	選考方法及び出題科目		配点	時間
学校推薦型 選抜	指定校制	面接			—	—
	公募制	国語	[現代の国語, 言語文化 (古文・漢文を除く。), 論理国語]		100点	45分
		数学	[数学Ⅰ, 数学A] ※1		100点	45分
		外国語	[英語コミュニケーションⅠ, 英語コミュニケーションⅡ, 論理・表現Ⅰ]		100点	45分
社会人等特別選抜		面接 (個人面接)			—	—
一般選抜		小論文			—	60分
		面接 (個人面接)			—	—
		国語・数 学	[現代の国語, 言語文化 (古文・漢文を除く。), 論理国語], [数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A] から1科目を選択 ※1 ※2		100点	60分
		理 科	[物理基礎], [化学基礎], [生物基礎] から1科目を選択		70点	45分
		外国語	[英語コミュニケーションⅠ, 英語コミュニケーションⅡ, 論理・表現Ⅰ]		100点	60分
大学入学 共通テスト 併用型選抜	一般選抜	国語・数学	[現代の国語, 言語文化 (古文・漢文を除く。), 論理国語], [数学Ⅰ, 数学Ⅱ, 数学A] から1科目を選択 ※1 ※2		2教科 200点	60分
		外国語	[英語コミュニケーションⅠ, 英語コミュニケーションⅡ, 論理・表現Ⅰ]			60分
	大学入学 共通テスト	国語	[国語] (近代以降の文章) ※3		高得点 2教科 200点	400点
		地理歴史・ 公民	[地理総合, 地理探究], [歴史総合, 日本史探究], [歴史総合, 世界史探究], [公共, 倫理], [公共, 政治・経済], [地理総合/歴史総合/公共] から1科目を選択			
		数 学	[数学Ⅰ, 数学A], [数学Ⅱ, 数学B, 数学C] から1科目を選択			
		理 科	[物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎], [物理], [化学], [生物], [地学] から1科目を選択			
		外国語	[英語] (リーディング・リスニング) ※4			
大学入学 共通テスト 利用選抜	A方式	国語・数学	[国語] (近代以降の文章) ※3, [数学Ⅰ, 数学A], [数学Ⅱ, 数学B, 数学C] から1科目を選択		100点	大学入学 共通テスト 実施日程どおり
		理 科	[物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎], [物理], [化学], [生物], [地学] から1科目を選択		100点	
		外国語	[英語] (リーディング・リスニング) ※4		100点	
	B方式	国語	[国語] (近代以降の文章) ※3		100点	
		地理歴史・ 公民	[地理総合, 地理探究], [歴史総合, 日本史探究], [歴史総合, 世界史探究], [公共, 倫理], [公共, 政治・経済], [地理総合/歴史総合/公共] から1科目を選択		100点	
		数 学	[数学Ⅰ, 数学A], [数学Ⅱ, 数学B, 数学C] から1科目を選択		100点	
		理 科	[物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎], [物理], [化学], [生物], [地学] から1科目を選択		100点	
		外国語	[英語] (リーディング・リスニング) ※4		100点	

- ※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。
- ※2 数学Ⅱの「微分・積分の考え」は出題範囲から除く。
- ※3 国語は、110点を100点に換算する。
- ※4 外国語は、200点を100点に換算する。

令和7年度大学院医学研究科（博士課程）学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

2 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和6年8月1日（木）から
令和6年8月15日（木）まで（必着）
試験日：令和6年10月4日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和6年10月29日（火）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和6年12月2日（月）から
令和6年12月16日（月）まで（必着）
試験日：令和7年1月31日（金）
試験場：大学本館
合格発表：令和7年2月28日（金）

3 試験項目・時間

試験項目	時間
外国語（英語） 〔辞書使用可，電子辞書不可〕 ※外国人志願者の外国語試験は，英語一か国語のみによる試験又は英語及び日本語の二か国語による試験のいずれかを選択する。	10：00 ～12：00
面接試験 （志望する専攻分野に関連する専門試験を含む。）	13：00～

令和7年度大学院看護学研究科（修士課程）学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

15名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域	コース	
基礎看護学	基礎看護学	修士論文	
	看護管理学		
母子看護学	母性看護学		
	小児看護学		
成人・老年看護学	慢性看護学		
精神・在宅・地域看護学	精神看護学		
	在宅看護学		
	地域看護学		
高度実践看護学	感染看護学		高度実践看護師 （専門看護師[CNS]）
	臨床実践看護学		高度実践看護師 （診療看護師[NP]）

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：令和6年8月5日（月）から
令和6年8月19日（月）まで（消印有効）
試験日：令和6年9月4日（水）

試験場：看護学部棟

合格発表：令和6年9月12日（木）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施
出願期間：令和7年1月10日（金）から
令和7年1月21日（火）まで
（消印有効）
試験日：令和7年2月6日（木）
試験場：看護学部棟
合格発表：令和7年2月13日（木）

4 試験科目・時間

試験時間	試験科目等
9：00～10：30	小論文
11：00～12：30	専門科目（※）
13：30～	面接

※ 専門科目の出題について

- 1 修士論文コース：志願する専攻領域
- 2 高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コース：CNS関連分野
- 3 高度実践看護師（診療看護師[NP]）コース：主な疾患の病態生理・治療及び看護

令和5年度愛知医科大学決算

令和6年5月27日（月）に開催された理事会及び評議員会において、令和5年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

■概要

令和5年5月8日（月）、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が、季節性インフルエンザと同じ「5類感染症」に移行し、令和2年の年初から約3年にわたる新型コロナウイルス感染症対応に区切りがつかしました。これを境に、コロナ禍の中で控えられてきた社会における各種活動が徐々に正常化へと進み、日常が取り戻されていく1年となり、いわゆるアフターコロナを迎えることとなりました。

本学においては、対面授業が再開し、学生がキャンパスへ通学する風景や、学園祭等の各種行事、クラブ活動も復活し、キャンパス内に活気が戻りました。

本院においても、感染対策を行いつつ、新型コロナウイルス対策のために設けられた施設及び運用ルールが徐々に解除され、令和6年4月からは、新型コロナウイルス感染症対策本部会議によって通常の診療体制となったところです。

令和5年度は、こうしたアフターコロナを見据え、国の財政措置が縮減する中であっても本学は委縮することなく、発展に向けたプロジェクトを展開する予算を編成し、これを計画のとおり実現させて参りました。

その具体例を挙げれば、救急医療体制改革の一環としてTACU（経過観察入院病棟）や救急・災害管理棟の整備、リハビリテーション医療の拡充に向けた施策、各フロアにおける病床追加及び外来化学療法室の拡張等、将来に向けた病院活性化に繋がるプロジェクトを推進しました。また、各職域での働き方改革を実現するため、特に医療職員については人員増や業務委託化の推進を行い、人手不足の解消、負担軽減を図ることができました。

教育面においては、医学部では特に医師国家試験対策

に力を入れてきました。残念ながら2年連続での新卒合格率100%とは参りませんでしたが、98.3%は大変高水準であり、合格者数は過去最多の118名を数えるに至りました。看護学部においても看護師国家試験は新卒合格率99.0%、保健師国家試験合格率100%と継続して高い水準を維持しています。

また、大学病院における医学生の教育環境の充実を図ることを目的とした文部科学省公募の「令和5年度大学教育再生戦略推進費高度医療人材養成事業」に申請したところ、本学の「次世代融合型Whole Bodyモニタリング超高度リハシステム」が、診療参加型臨床実習、臨床研究環境の充実及び高度なりハビリテーション治療を提供するための最先端医療設備として選定されました。これにより、我が国の「未来の医療」を担う高度医療人材の養成に貢献すべく、そして創立50周年記念事業プロジェクトの一つである「リハビリテーション医療の充実」に関する取り組みと合わせて、環境整備が進むところとなります。

研究面では、大型AMEDプロジェクトの採択が継続して6億円を超え、科研費等の公的研究費及び受託研究・共同研究などの外部から獲得した研究費は総額10億円を突破し、研究の活性化が順調に進んでいます。

メディカルセンターにおいては、「地域多機能病院」を目指す取り組みの一環として、二次救急の365日化への対応や南館2階手術室整備、透析患者に対する送迎サービスを開始しました。

アフターコロナを迎えた令和5年度ではありましたが、改めて振り返ると新型コロナウイルスは波状に感染を繰り返しており、10月まで新型コロナウイルス感染症ワクチン接種として、ノババックスワクチン接種会場を開設

する等、新型コロナウイルス対策を講じてきました。また、新型コロナウイルスが消えてなくなったわけではなく、入院患者へのPCR検査は手を抜くことなく実施する等、正常化への判断を慎重に見極めながら診療活動の継続を行ってきたことから、各種プロジェクトの実現と医療収入の増収、先行投資の効果の発現に時間差が生じたものと考えられます。

着実に発展を遂げてきた本学の次の50年に向けて弛まず躍進を続けていけるよう、イノベーションプロジェクトを始めとした様々な取り組みを実施しています。

これらの活動成果により、令和5年度の医療収入決算額は、令和4年度の424億円を上回る446億円強（対前年比+5.32%）を計上できました。

一方、支出の中で大きなウェイトを占める人件費は、教員や病院スタッフの人的資源の確保を図り、人件費率が2.1ポイント上がり、41.5%となりました。

こうしたことから、事業活動収入は548億円、事業活動支出は574億円、事業活動収支差は25億2,181万円強のマイナスとなりました。

■前年度との比較（主な増減）

(1) 事業活動収支計算書

令和5年度決算は、事業活動収入54,843百万円（前年度比0.8%減）、事業活動支出57,364百万円（前年度比3.8%増）となり、この収支差額は、△2,522百万円となりました。経常的な収支バランスである経常収支差額は、△2,689百万円となり、臨時的な収支バランスの特別収支差額は、167百万円となりました。経常収支差が前年度から2,950百万円悪化、医療収入額は前年度から2,258百万円増加しています。

(2) 資金収支計算書

資金収入の部合計は、669億円で前年対比25億849万円の増加となっていますが、調整勘定等を除く実質的な収入は約8億4,500万円の増収、同様に実質的

な資金支出の部合計は、25億5,000万円の増加となりました。

(3) 貸借対照表

資産総額は前年比△38億円（5.6%）減少の638億円となりました。また、純資産額は前年比△25.2億円（△7.87%）減少の295億円となりました。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。<https://www.aichi-med-u.ac.jp/files/soumu/R05zen.pdf>

事業活動収支計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：百万円)

		科目	金額	前年差		
教育活動収入の部	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,901	△58		
		手数料	214	50		
		寄付金	319	△394		
		経常費等補助金	2,724	△1,054		
		付随事業収入	1,048	△743		
		医療収入	44,694	2,258		
		雑収入	668	△498		
		教育活動収入計	54,567	△440		
		事業活動支出の部	事業活動支出の部	人件費	22,781	1,009
				教育研究経費	33,125	1,494
管理経費	1,101			7		
徴収不能額等	36			24		
教育活動支出計	57,042			2,534		
教育活動収支差額	△2,475			△2,974		
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	9	7		
		教育活動外収入計	9	7		
	支出の部	借入金等利息	223	△16		
		教育活動外支出計	223	△16		
教育活動外収支差額	△214	24				
経常収支差額			△2,689	△2,950		
特別収支	収入の部	その他の特別収入	266	△28		
		特別収入計	266	△28		
	支出の部	資産処分差額	39	△59		
		その他の特別支出	60	△355		
特別支出計	100	△414				
特別収支差額	167	386				
基本金組入前当年度収支差額			△2,522	△2,564		
基本金組入額合計			△4,510	△1,506		
当年度収支差額			△7,032	△4,070		
前年度繰越収支差額			△66,776	△2,962		
翌年度繰越収支差額			△73,808	△7,032		

(参考)

事業活動収入計	54,843	△461
事業活動支出計	57,364	2,103

(注1) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

(注2) <->の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、<0>の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

資金収支計算書

令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

(単位：百万円)

収入の部			支出の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
学生生徒等納付金収入	4,901	△58	人件費支出	22,584	865
手数料収入	214	50	教育研究経費支出	28,754	1,043
寄付金収入	319	△393	（うち医療経費支出）	(26,230)	(1,057)
補助金収入	2,900	△1,129	管理経費支出	799	△412
（国庫補助金収入）	(1,744)	(258)	借入金等利息支出	223	△16
（地方公共団体補助金収入）	(1,156)	(△1,388)	借入金等返済支出	1,152	△140
（若手・女性研究者奨励金収入）	(0)	(0)	施設関係支出	2,344	996
資産売却収入	36	36	設備関係支出	2,259	△980
付随事業・収益事業収入	1,048	△743	資産運用支出	100	40
医療収入	44,694	2,258	その他の支出	7,885	1,156
受取利息・配当金収入	9	7			
雑収入	684	△488			
借入金等収入	100	40			
前受金収入	916	△13			
その他の収入	12,095	1,278			
資金収入調整勘定	△9,623	1,671	資金支出調整勘定	△6,842	923
前年度繰越支払資金	8,607	△8	翌年度繰越支払資金	7,641	△965
収入の部合計	66,898	2,508	支出の部合計	66,898	2,508

(注1) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

(注2) <->の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、<0>の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

貸借対照表

令和6年3月31日現在

(単位：百万円)

資産の部			負債の部		
科目	金額	前年差	科目	金額	前年差
固定資産	46,628	△1,303	固定負債	24,944	△926
有形固定資産	44,356	337	長期借入金	16,499	△844
土地	9,876	△53	学校債	400	20
建物	25,554	63	長期未払金	1,209	△298
構築物	1,096	△90	退職給与引当金	6,836	197
教育研究用機器備品	6,394	268	流動負債	9,319	△355
管理用機器備品	260	23	短期借入金	844	△188
図書	913	△10	1年以内償還予定学校債	80	△40
車両	92	△33	未払金	6,967	△157
建設仮勘定	169	169	前受金	921	△18
特定資産	779	△1,327	預り金	507	49
学校債償還引当特定資産	480	△20			
借入金返済引当特定資産	200	△300	負債の部合計	34,263	△1,281
医療機器等整備調整資金引当特定資産	50	△1,000			
国際交流推進引当特定資産	31	△1	純資産の部		
教育研究活性化引当特定資産	18	△6	科目	金額	前年差
その他の固定資産	1,493	△313	基本金	103,335	4,510
借地権	20	-	第1号基本金	99,190	4,341
電話加入権	5	△0	第4号基本金	4,145	169
施設利用権	87	△15	繰越収支差額	△73,808	△7,032
ソフトウェア	770	△289	翌年度繰越収支差額	△73,808	△7,032
有価証券	11	-			
長期貸付金	599	△10	純資産の部合計	29,527	△2,522
保証金	0	0	負債及び純資産の部合計	63,790	△3,802
預託金	0	-			
流動資産	17,162	△2,499			
現金預金	7,641	△965			
未収入金	8,654	△1,604			
貯蔵品	453	36			
短期貸付金	240	36			
立替金	1	△0			
前払金	172	△2			
資産の部合計	63,790	△3,802			

(注1) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

(注2) <->の表記は、計算上ゼロあるいは該当数字なしを示し、<0>の表記は、単位未満を切り捨てた場合のゼロを示す。

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業募金のご協力のお願い



学校法人 愛知医科大学
理事長 祖父江 元

愛知医科大学は、昭和46年に設置認可を受け、翌昭和47年4月に医学部の第1回生を迎え入れました。その後、大学院医学研究科、看護学部、大学院看護学研究科を開設し、現在は2学部・2大学院体制となっています。

本学は「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針とし、学是「具眼考究」の理念の下、教育・研究・診療の各分野で勇往邁進に取り組んで参りました。

今後、更に社会から評価され、選ばれる医療人の育成、安心・安全の信頼できる先進医療の提供、地域とともに歩む医療の推進、新たな医学・医療の開拓、将来へ向けたキャリアパスの描ける場の提供など、時代の変化に合わせた、あるいは先取りする柔軟な変革に取り組んで参ります。

より良い大学、より良い病院となるため、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金要項

① 募金目的

教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業

② 募金1口の金額

個人：1万円 法人：5万円

（できるだけ多数口のご支援をお願いします）

③ 税制優遇措置

個人：税額控除制度・所得控除制度のいずれかを選択等

法人：受配者指定寄付金制度等

寄附の方法

<書面（郵送）>

- ・本学HPから必要な書類をダウンロード又は本学から書類を送付します。
- ・寄附申込後、別途お振込みなどをお願い致します。

<インターネット>

- ・本学HPから直接お申込みいただき、次のようなお支払いができます。



NEW ふるさと納税を活用した寄附を開始します

長久手市が「ふるさと納税制度」を活用し、市内の大学の支援を開始します。ふるさと納税制度を通じて、応援したい大学として「愛知医科大学」を指定いただくことで、直接「愛知医科大学」を支援いただけるようになります。

ふるさと納税とは

育ててくれたふるさと、お世話になった場所を納税先に選ぶことで、支払う税金の中から寄附できる制度です。寄附控除として、2千円を超える部分については全額が所得税や住民税から控除されるため（上限額あり）、寄附者の実質負担は2千円です。

※ご不明な点など、以下の連絡先へお問い合わせください。

お問い合わせ

学校法人愛知医科大学

資金・出納室

☎ 0561-63-1062

E-mail : sikin@aichi-med-u.ac.jp



インターネットからでも寄附ができます。

愛知医大 募金



令和6年度医学部後援会定期総会開催 新会長に高柳 友子氏を選出



令和6年5月26日（日）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて、令和6年度愛知医科大学医学部後援会・医学部互助会定期総会が開催されました。

令和5年度医学部後援会・医学部互助会の事業報告及び決算報告が、会計監査報告を受けて承認されました。次に、令和6年度役員改選を行い、新会長として高柳友子氏【写真】を始め総勢18名の新役員が選出されました。会員を代表して高柳新会長からは、「保護者後援会として、学業を支える教育協力費と国試対策費、学生生活を支

える厚生協力費の支援をしております。学生・大学と三位一体の活動をして参りたいと思いますので、積極的なご参加をよろしくお願い致します。」とのあいさつがあり、前会長である富安聡氏に花束が手渡されました。その後、令和6年度事業計画及び予算案が原案どおり承認され、総会は終了しました。

総会終了後には、笠井謙次医学部長、鈴木耕次郎教務部長、宮本淳学生部長、島田孝一法人本部長からごあいさつがあり、レストラン「オレンジ」での昼食を挟んで、午後1時から4～6学年次生の保護者を対象とした国試懇談会が開催されました。

令和6年度看護学部父母会定期総会開催 新会長に加藤 宏泰氏を選出



令和6年5月18日（土）午前10時から令和6年度看護学部父母会定期総会がオンラインで開催され、遠方の会員の皆さまにもご参加いただきました。

総会は、令和5年度会長である富田裕一氏による「私たち父母会は子供の将来の夢を叶えるための活動をさせていただいており、今後も皆さまのご意見を基に学生ファーストの活動をさせていただきたいと思います。」とのごあいさつに始まり、続いて役員の改選が行われ、19名の役員が選出されました。令和6年度新会長として3学年

次生ご父母である加藤宏泰氏【写真】が就任され、「これからの一年間、皆さまのご協力をいただきながら学生の有意義な大学生活並びに大学の発展のために鋭意努力して参ります。」とのごあいさつがありました。議事終了後、若杉里実看護学部長及び泉雅之教務学生部長から「令和6年度の看護学部の取り組み」及び「看護学部の教育目標と学生の学修の実績」についての報告があり、定期総会は終了しました。

定期総会終了後には、引き続きオンラインによる「学年別懇談会」が開催され、ご父母と各学年次の主任・副主任による様々な意見交換が行われました。

役員・評議員の異動

【理事】

退任 富安 聡（令和6年5月31日付）

就任 高柳 友子（任期：令和6年6月1日～令和7年1月27日）

【評議員】

退任 富田 裕一（令和6年5月31日付）

退任 富安 聡（令和6年5月31日付）

就任 加藤 宏泰（任期：令和6年6月1日～令和7年1月27日）

就任 加藤 雅通（任期：令和6年6月1日～令和7年1月27日）

洋上救急業務の協力に関する協定締結

学校法人愛知医科大学と公益社団法人日本水難救済会は、海上保安庁の巡視船・航空機等を用いて行う洋上救急業務を円滑に実施するための相互協力に関する協定を締結しました。

この協定により、洋上船舶内で発生した傷病人の治療のために要請に応じて、本学の医師及び看護師等を派遣することとなります。

また、令和6年6月27日（木）午後2時から、大学本館711特別講義室において、「洋上救急協力病院協定書締結式」が行われ、両機関の関係者約20名が出席しました。

式では、日本水難救済会洋上救急センター東海地方支部の坂口峰男幹事から、協定締結の趣旨説明があり、両機関を代表し、東海地区洋上救急支援協議会の北川喜己副会長及び学校法人愛知医科大学の祖父江元 理事長・学長が協定書に署名しました。

続いて、北川副会長から「愛知医科大学病院との



締結式にて

（左から道勇病院長，祖父江理事長，北川副会長，澤井本部長）

協力協定の締結により、体制を充実させることができ心強く感じている。」、祖父江理事長から「この協定により、洋上の傷病者を一人でも多く救命できるよう努めていきたい。」とのあいさつがありました。

この後、ご多忙の中、ご臨席いただきました、第四管区海上保安本部の澤井幸保本部長から、洋上救急の実績と活動協力への強い期待を込めたご祝辞を頂戴し式は終了しました。

令和6年度愛知医科大学公開講座

行ってみよう！ 聴いてみよう！ 医科大学の公開講座 ～ 楽しく学べる健康講座 ～

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、公開講座を開催しております。今年度の公開講座は、テーマを「楽しく学べる健康講座」と題し、9月14日（土）、21日（土）、28日（土）の計3回にわたって開催を致します。

受講内容等は次のとおりです。

- 受講対象者 一般市民
- 募集人数 400名（申込制）
- 受講料 無料
- 会場 大学本館たちばなホール

開催日	講演時間	テーマ及び講師
9月14日（土）	10：00～10：40	胃がんを深掘り～ピロリ菌と内視鏡検査の最新情報～ 内科学（消化管内科） 教授 小笠原尚高
	10：50～11：30	実は身近な精神科診断 精神科学 教授 宮田 淳
	11：40～12：20	避難生活で整えようT・K・B（C・W） ～能登半島地震への対応から災害に備える～ 地域・在宅看護学 准教授 佐々木裕子 公衆衛生看護学 講師 二村 純子
9月21日（土）	10：00～10：40	骨粗鬆症・敗血症・痛みをコントロールする感覚免疫システムとは何か？ 薬理学 教授 丸山 健太
	10：50～11：30	放射線科のカテーテル治療、IVRを知ろう！ 放射線医学 教授 下平 政史
	11：40～12：20	認知症の診断と治療～アルツハイマー型認知症を中心に～ 加齢医科学研究所 教授 岩崎 靖
9月28日（土）	10：00～10：40	妊娠高血圧症候群既往女性における 将来の脳、心、腎血管疾患との関連性 産婦人科学 教授 渡辺 員支
	10：50～11：30	小さく生まれた赤ちゃんの子育て・子育て支援 小児看護学 教授 茂本 咲子
	11：40～12：20	寝てる間に終わる？！全身麻酔の“種明かし” 麻酔科学 教授 野手 英明



～ 愛知県委託事業 ～

「令和6年度介護施設等防災リーダー養成研修事業」採択

愛知県の委託事業である「令和6年度介護施設等防災リーダー養成研修事業」に、本学が採択されました。

本事業は、令和3年度以降毎年本学が採択されており、災害医療研究センターが中心となり、高齢者介護施設等に勤務する職員を対象とした「防災リーダー養成研修」を実施し、防災リーダーの育成に貢献しています。

近年頻発している大規模地震等の激甚災害により、

要配慮者を預かる介護施設等の被害も甚大となっています。今年度で4年目となる本事業では、講義や机上演習を通して介護施設等がどのような被害を生じ、その対策として何が必要かを考えるとともに、各介護施設等で作成されているBCP(業務継続計画)をより現実味・実効性のあるものに改正する一助となるよう、グループディスカッションを中心とした集合研修を企画しています。

<令和6年度防災リーダー養成研修>

研修回	日 程	対 象	会 場
第1回 第2回 第3回	9月12日(木) 13:30～16:30 9月13日(金) 9:30～12:30 〃 13:30～16:30	三河地区	蒲郡商工会議所
第4回 第5回 第6回	10月31日(木) 13:30～16:30 11月1日(金) 9:30～12:30 〃 13:30～16:30	西尾張地区	稲沢商工会議所
第7回 第8回 第9回 第10回	11月28日(木) 9:30～12:30 〃 13:30～16:30 11月29日(金) 9:30～12:30 〃 13:30～16:30	東尾張地区ほか 県内全域	日赤愛知災害管理センター棟 (日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院)

(全回同内容)



献血ご協力ありがとうございました

令和6年5月31日(金)大学本館1階南側ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施されました。職員を始め多くの方にご協力いただき、受付数は過去最多の83名となりました。

せっかく献血をお申し出いただいたのに体調によりご協力いただけなかった方々は、ご自愛いただき、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

夏の団体献血(結果)

・献血受付数	・83名
・献血できた方	・62名 (400mL・56名)
・献血できなかった方	・21名

次回は令和7年1月頃に予定していますので、ご協力よろしくお祈いします。

わくわく体験リニモツアーズ2024 「“コードブルー”の世界 救急医療について学び、 考えてみよう！」開催

東部丘陵線（リニモ）沿線の魅力を満喫し、学び楽しむ小学生対象のイベント「わくわく体験リニモツアーズ2024」が、愛知県都市・交通局交通対策課を事務局とする東部丘陵線連絡協議会の主催により開催されました。本イベントは、リニモ沿線施設での体験講座を通じて、子供達の環境学習や社会学習等の効果が期待されるものであり、本学も体験講座の実施施設の一つとして同事業へ協力しています。

本学では、令和6年7月25日（木）、26日（金）の2日間で「“コードブルー”の世界 救急医療について学び、考えてみよう！」と題した体験講座を開催し、多くの小学生及びその保護者にご参加いただきました。体験講座では、ドクターヘリの見学会、ドクターヘリに関する講演会及び質疑応答が行われ、講演会では、本院のフライトドクター及びフライトナースによる講演がクイズ形式で行われました。ドクターヘリや仕事内容についての説明に加え、普段聞くことができない医療現場での話やドクターヘリの話に対し、子供達からは積極的に手が挙がり、楽しみながら救急医療を学んでいただくことができました。また、フライトナース達が実際現場に駆けつける際に背負うリュックの重さに驚いていました。

2日間ともにドクターヘリの出動要請が入ったことに伴い、救助へ向かうためのヘリ離陸や帰還時に着陸の様子を見学することができ、緊迫した医療



講演会



ドクターヘリ見学会

の現場を体感していただきました。帰還後に実施されたドクターヘリの見学会では、機体の迫力を間近で感じ、多くの参加者が機体との記念撮影を行いました。

最後には、参加者全員に大学オリジナルグッズ（ドクターヘリの特製ピンバッジ等）を配付し、体験講座は盛況のうちに終了しました。

日本学術振興会作成「ひらめき☆ときめきサイエンス」 令和6年度版パンフレットに生物学の武内 恒成教授による 実施プログラムが掲載

本学では、全国の国公立大学・大学共同利用機関や高等専門学校等の研究機関が開催する「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」に参加しており、このたび、生物学の武内恒成教授により令和5年度に実施された訪問体験型プログラム「失われた機能を再生させる－再生医療とは何だろう？－」が、独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の作成する令和6年度版パンフレットに医歯薬学・生物分野の実施プログラムとして紹介されました。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」は、日本の未来を担う小中学生、高校生の皆さんに対し、「科研費」（KAKENHI）による独創的・先駆的な研究について、その中に含まれる科学の興味深さや面白さを講義・実験等を通じて研究者が分かりやすく語りかけ、研究者自身の歩み、研究を志した動機や人柄に触れてもらうことで学問の素晴らしさや楽しさを体感していただく取り組みです。武内教授による実施プログ



本学生物学教室実施プログラムの様子

ラムでは、生物の脳・神経組織をモデルに観察や実習が行われ、再生医療の最先端の研究情報や神経研究の面白さについて学びました。

今後も、本学で実施される研究がどのような成果を生み出そうとしているのかを皆さんに広く知っていただくとともに、次世代の研究者となり得る若者が「ひらめき」、「ときめく」心の豊かさと知的創造性を育むことができるような活動を積極的に行って参ります。

研究創出支援センター「戦略的研究推進セミナー」開催

令和6年7月1日（月）午後5時から、大学本館302講義室において、研究創出支援センター主催による「戦略的研究推進セミナー」が開催されました。

講師には、システムバイオロジー、特に画像処理やその解析方法の先端領域で活躍される新進気鋭の研究者である慶応義塾大学理工学部塚田祐基講師をお迎えし、「システムバイオロジーと生物画像情報解析の最先端」と題して講演が行われました。

生命現象はダイナミックで、多くの要素が複雑に絡むため、分子生物学などの還元論的な方法論では全容の理解は難しく、古典的な生物学の方法論に加

えて、近年の発展が目覚ましいライブイメージングデータの解析、数理や情報科学を駆使しダイナミックな生命現象の理解を進めるアプローチ及びその潮流や、画像デジタル技術の最先端へのアプローチについて紹介されました。

参加者は、学内研究者や医学部学生など多数に及び、講演後には聴講者から質問が多数寄せられる等、活発な議論も行われました。

今後も研究創出支援センターでは、研究活性化に資する様々なセミナー等を開催することを予定していますので、ぜひご参加ください。

科研費・外部研究費獲得支援セミナー及び申請に関する事務説明実施

令和6年7月18日（木）午後5時から、大学本館302講義室において、研究者を対象とした科研費・外部研究費獲得支援セミナーが対面とZoomによるハイブリッド形式で行われ、140名の参加がありました。

令和6年度は、久留米大学名誉教授及びジーラント株式会社代表取締役の児島将康氏と本学研究創出支援センターの武内恒成センター長（生物学・教授）及び順天堂大学研究戦略推進センター URAの高野秀一氏にご講演いただきました。

児島氏からは「研究目的は簡単なようだが実は難

しい」、武内センター長からは「審査委員は申請書のなにを見て採択を決めるのか」、高野氏からは「順天堂URA高野式：科研費申請支援術」というテーマでの講演をしていただき、科研費等への申請に向けて有意義な内容となりました。

また、セミナー後には総務部研究支援課から科研費の申請方法や事務的な注意点についての説明が行われました。

本学は今後も、研究活動の一層の活性化と科研費を始めとする競争的資金の獲得を推進していきます。

【高大連携事業】

総合学術情報センター図書館の利用

総合学術情報センター（図書館部門）では、愛知県立長久手高等学校と愛知医科大学との高大連携事業の一環として、令和元年度から、長久手高等学校生徒及び教員に施設を開放しています。平日は午後7時まで、土曜日は午後6時30分まで利用ができ、学術資料の閲覧・複写・貸出、学習目的での閲覧席の使用、医療系データベースの検索、電子ブック・電子ジャーナルの閲覧等、サービスの範囲は本学の学生とほぼ同一です。令和5年度の入館者数（延べ

数）は324名でした。

令和6年5月8日（水）には、医療看護コース第2学年の生徒17名を対象として、本学職員（司書）による図書館利用ガイダンスが実施されました。館内を巡りながら、資料の探し方や施設の利用方法など、入門的な説明が行われました。また、令和6年6月19日（水）には、第2学年と第3学年が図書館内で文献検索を行いました。引き続き、図書館を積極的に活用していただくことを期待しています。

令和6年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では、「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

令和5年度新規採用職員1年フォロー研修実施

令和6年5月15日（水）午後1時30分から午後4時30分まで大学本館711特別講義室において、事務部門の令和5年度新規採用事務職員を対象に、配属後1年を一つの区切りとしたフォロー研修が実施されました。

今回の研修は、個人・グループワークを行った後、1年目の後輩職員に向けてプレゼンテーションを行うという形式で行われました。個人ワークでは自身の1年間の業務を振り返り、グループワークでは1年を通じて学んだことや後輩へのメッセージをまとめ、和やかな雰囲気ワークが進められました。

個人発表では、後輩職員にも伝わりやすいよう、専門性の高い業務を分かりやすく説明しました。グループ発表では、自らの反省や仕事で直面した壁について、どのように対処したのかを説明し、後輩職員からは、「今後の業務の取り組み方について参考になった。」という感想がありました。



入職2年目の皆さん

受講者からは、「スライドは分かりやすいよう簡潔にまとめ、発表は言葉選びに気をつけた。」と聴講者への配慮を学んだことや、「1年間を振り返り、できるようになったことに改めて気づく良い機会だった。」、「同期の発表を聞き、普段経験することのない業務を知ることができた。」といった前向きな感想がありました。

令和6年度全学コミュニケーション研修（共感力発揮研修）実施

令和6年7月18日（木）、19日（金）に大学本館たちばなホールにおいて、全教職員を対象とした全学コミュニケーション研修が実施され、244名の教職員が参加しました。

研修では、「共感力発揮研修～スムーズに仕事を進めるために理解と思いやりを示す」をテーマとして、人間関係をより良くして仕事を進めやすくするために、相手の感情や心理状態、主張に共感し、自分の思いを適切に伝える方法について学びました。

アンケート結果には、「自身で心がけていたこともあれば無意識に行ってしまう良くない言葉遣いもあったため、コミュニケーションを見直すきっかけとなった。」、「患者さんや看護師と話をするとき、相手に関心をもって接することが大切であると思った。反復して共感すること、相手が嫌がる



研修の様子

言葉は使用しないこと、否定的にならず、『でも、だって、だから』は使わないように注意して円滑なコミュニケーションを図っていきたいと思う。」との感想がありました。

教授就任インタビュー



脳神経外科学講座・教授

わたなべ ただし
渡邊 督

— 教授就任に当たっての抱負を 聞かせてください。—

この度、脳神経外科学講座の教授を拝命致しました。よろしく申し上げます。私の専門領域は内視鏡を用いた低侵襲脳神経外科手術です。脳神経外科における内視鏡手術は、小さな入り口から広い視野角で骨構造や神経血管の向こう側を観察できることが重要で、安全性や根治性に関わります。令和元年からは内視鏡と併せて外視鏡というシステムも使用しており、様々な工夫をして理想的な低侵襲手術を目指しています。

本講座では同じく低侵襲治療である脳血管内治療チームと、脊椎脊髄外科チームが活躍しています。いずれも豊富な経験に裏付けられた技術で難手術に取り組んでいます。脳外科は様々な専門分野に分かれており、若手の医局員には個性に合わせた道を選んで仕事を楽しくしてもらいたいと思っています。医局員一人ひとりが輝いている医局を目指しています。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

勉強は好きな方ではないので、体で覚えて仕事ができる外科系の方針は最初から決まっていました。ただ、勉強の中でも解剖学だけは面白いので自ら進んで取り組んでいたと思います。

豊橋市民病院で研修をして、形成外科と脳外科で迷っていました。救急で運ばれてきた外傷や、クモ膜下出血の患者さんが、迅速な治療によりすっかり良くなって歩いて帰っていく様子や、淡々と仕事を

こなす先輩達の後姿がとても素敵でしたので脳外科に決めました。

専門領域を決める際には脳外科の中でも手術が重要な要素である領域に関心がありました。名古屋大学に帰局した際、1 cmの穴から内視鏡で脳室内血腫を取り除き、術後の管理が非常に楽になった症例を経験し、内視鏡のポテンシャルに気がきました。また、当時師である齋藤清先生と永谷哲也先生が試行錯誤を行っていた内視鏡下経鼻手術にも未来を感じ、神経内視鏡手術に自然に取り組むようになりました。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

自分自身も修行中ですが、メッセージは以下の如くです。

頂いた人生は一度きりですし、思う存分楽しんでください。やりたい、面白い、と思ったことは積極的にチャレンジしてください。くだらない理由をつけて、このワクワクを止めないでください。他人は他人です、気にしないでください。これは学生時代だけではなくプロになってからも一緒だと思います。

これから様々な選択の機会があると思いますが、一つ言えることは、向いていないことを無理にしないでいいです。やっていて楽しい、わくわくすることを生業にしてください。



結成34年の同級生バンドによる昨年のライブ

令和6年度医学部FD開催

本年度1回目の医学部FD（ファカルティ・デベロップメント）は、令和6年4月24日（水）に「UpToDateの使い方」をテーマとして開催されました。内科学講座（血液内科）の高見昭良教授を講師とした臨床現場でのUpToDateの活用方法についての講演には、100名を超える先生方が参加されました。参加者は各自の端末を実際に操作し、使用方法の実践を行いました。

第2回は、令和6年5月30日（木）に「医学教育分野別評価の年次報告書作成」をテーマとしたFDが各領域の担当教員を対象に開催され、35名の先生方が参加されました。当日は、笠井謙次医学部長からのあいさつ後、領域毎に分かれ、年次報告書作成のための議論が活発に行われました。また、令和8年度の分野別評価受審に向け、今後すべきことを参加者全員で共有しました。

第3回は、令和6年6月11日（火）にMECの塩澤昌英先生を講師にお迎えし、「医師国家試験」をテーマとした講演会が開催され、120名を超える先生方が参加されました。塩澤先生からは、昨年度の医師国家試験の分析や、本学の国家試験対策が最近の国家試験出題傾向に合致しているかなどについてお話しいただきました。続いて、令和5年度の2学



高見教授



山口准教授



左から、塩澤先生及び医学教育センターの早稲田教授

年次ベストティーチャー賞に選ばれた薬理学講座の山口奈緒子准教授から、「講義の工夫」をテーマとして、学生に対する講義への興味を持たせ方についてお話しいただきました。

今後も、様々なテーマでのFDを実施する予定のため、皆さまご参加ください。

令和6年度臨床実習後OSCE実施

令和6年7月13日（土）に臨床実習後OSCEが実施されました。この試験は、医学生が診療参加型臨床実習において十分な臨床能力を修得できているか、つまり、臨床研修を開始して良いかどうかを測定する試験です。

出題内容としては、共用試験実施評価機構の課題（機構課題）3題と各大学独自の課題3題で構成されています。機構課題は、1課題16分間（医療面接と身体診察：12分間、情報整理と指導医への報告：4分間）という限られた時間の中で、医療面接と身体診察を行い、鑑別疾患を思い浮かべて、指導医へ

報告するという形式です。学生は機構課題に対し十分に対策をしており、多くの学生が対応できていましたが、大学独自課題においては、対応に苦慮している学生が散見されました。

今回の臨床実習後OSCEの結果を各診療科で共有していただき、更に今後のクリニカルクラークシップの充実に活かしていただきたいと思います。また、模擬患者さんを始め、多くの職員の方々に運営スタッフとして携わっていただき、改めて皆さまのご協力に感謝致します。

愛知医科大学不老会会員の集い開催

令和6年5月13日（月）午前10時30分から覚王山日泰寺の普門閣において、愛知医科大学不老会会員の集いが開催されました。あいにくの雨にも関わらず、不老会役員、本学部会役員、一般会員及び医学部2学年次生の計93名が出席し、会場内は多くの参加者で盛況となりました。

会員の集いは、成願された方々への黙とうで始まり、笠井謙次医学部長、公益財団法人不老会の久野格彦理事長からごあいさつをいただきました。続いて、学生代表の安田百花さんから、「ご献体に触れ、その方の人生に想いを馳せることで、これまで以上に医師という人の命を扱う職業の責任の重さを実感しています。」と感謝の想いを込めた体験発表がありました。

その後、講演発表として、耳鼻咽喉科・頭頸部外



会場の様子

科学講座の藤本保志教授から「元気な食生活の秘訣 - 嚥下障害を知り、健康を守る -」と題した講演があり、解剖学講座の内藤宗和教授から献体の現状についての報告が行われました。それぞれの質疑応答の時間には、参加者の方々から積極的に手が挙がり、活発な意見交換が行われました。

令和6年度医学部解剖慰霊祭挙行

令和6年5月13日（月）午後2時から覚王山日泰寺において、医学部解剖慰霊祭が厳かに執り行われ、ご遺族を始め、不老会、教職員及び医学部2学年次生など関係者約240名が出席しました。

令和5年度中に系統解剖と病理解剖へご遺体を供せられた72柱が新たに合祀され、総数5,426柱の御霊に対し、参列者一同はご冥福をお祈り致しました。

祭儀では、笠井謙次医学部長、公益財団法人不老会の久野格彦理事長が慰霊の辞を述べました。続いて、学生代表の柴田陸叶さんが「一人ひとりの患者さんが持つ様々な背景に正面から向き合い、最善の努力を尽くしていき、命を救い、より良い未来に貢献することで、お身体を提供してくださった方の尊いご意思に恩返しをしたい。」と礼辞を奉読し、御霊に深い感謝と尊崇の念を捧げました。

焼香の段では、笠井医学部長、解剖学講座を代表



覚王山日泰寺での解剖慰霊祭の様子

して内藤宗和教授、病理学講座を代表して伊藤秀明講師、学生を代表して矢尾夏大さんが順番に哀悼の意を表し、続いて参列者一人ひとりが霊前にて焼香を行いました。

最後に、笠井医学部長から参加者に対して謝辞が述べられ、式は滞りなく終了し、参列者は学生が見送る中で帰路につかれました。

熱中症予防講演会開催

令和6年6月17日（月）午後5時40分から大学本館たちばなホールにおいて、課外活動を行う医学部及び看護学部の学生を対象に、救命救急科の寺島嗣明講師による熱中症予防講演会が開催されました。

この講演会は、8月上旬から開催される西医体(西日本医科学学生総合体育大会)に向け練習量が多くなることや、夏季休業期間中の練習時間帯が夜から日中に移行するなど、7月から8月にかけては熱中症に注意する必要があることから、熱中症予防について再認識してもらうことを目的に開催しています。

寺島講師からは、熱中症は多臓器不全や中枢神経障害を引き起こし死に直結する場合もあり、早期認識・治療により重症化を防ぐことや、予防が大切であること、危険を避けるためにも暑さ指数(WBGT)を確認することについて説明していただきました。両学部合わせて約400名の学生が参加し、講演会後には簡易テストを行うなど熱中症に関する知識の確認を行いました。



講演する寺島先生

参加した学生からは、「多臓器不全になると死に直結するので、早めに対処することが大切だと思います。」「これから西医体に向けて練習が増えるので熱中症には気を付けて練習に取り組みたい。」「熱中症はとても怖いものであり、私たちは大丈夫だろうという勝手な認識を無くしたいと改めて思いました。」等の感想がありました。

学術国際交流協定大学への医学部学生留学体験記

留学を終えた学生から寄せられた体験記の一部をご紹介します。なお、学報前号(174号)に掲載の紹介文章に誤りがありましたので、再掲させていただきます。

臨床実習選択(Elective)コース

大学名	期間	人数
ウッチ医科大学(MUL)	令和6年2月23日(金・祝)～令和6年3月24日(日)	1

ウッチ医科大学(MUL) 臨床実習選択コース

医学部6学年次生 堀田 春花

この度、ポーランドのウッチ医科大学にて4週間実習の機会をいただきました。私は、関連病院のBarlickiego病院の脳神経内科で実習をさせていただきました。ポーランドはポーランド語が公用語ですが、多くの先生方が英語を話すことができ、英語で実習をしてくださいました。日本とポーランドの医療を実際に見ることができ、自分の視野が広がったように感じます。積極性がないと学べる感じが少ないと感じたため、積極的に検査の見学や回診に参加するようにしました。先生方や事務の方など、ポーランド滞在中に出会った方は皆さんとても優しく、大変充実した実習を行うことができました。休日は昨年本学へ留学に来ていた友人と再会し、ウッチ市内を案内してもらい、ポーランドの各地を旅行しま



脳神経内科の先生方と堀田さん(左)

した。今回このような貴重な機会をいただき、大変感謝しております。ありがとうございました。

令和6年度看護学部キャンドルセレモニー挙行

令和6年6月8日（土）午前10時から大学本館たちばなホールにおいて、看護学部2学年次生を対象に、本学関係者及び保護者を招待し、令和6年度キャンドルセレモニーが挙行されました。

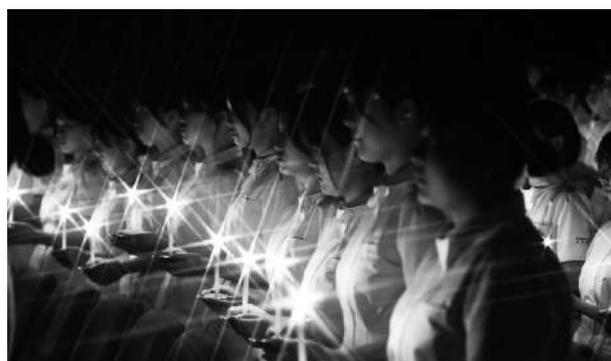
本学のキャンドルセレモニーは、ナイチンゲールの精神を受け継ぎ、看護職者となるための決意を新たに誓いの場として、2学年次生の実行委員が中心となって企画し、学生たちが協力して運営しているものです。

始めに、祖父江元 学長から式辞が述べられ、続いて、若杉里実看護学部長、井上里恵看護部長からメッセージが贈られました。その後、学生代表14名がナイチンゲール像の灯火を燭台に受け継ぎ、「私の目指す看護師像」を発表した後、一斉に全ての学生へ灯火を引き継ぎました。最後に、学生代表2名が壇上に上がり、誓いの言葉を述べ、厳粛な雰囲気の中キャンドルセレモニーを終了しました。

この式典を通じて、これから本格的に始まる看護学の修得に一層力を注ぎ、高度な知識・技術を兼ね備えた心豊かな看護職者へと成長していくことを心から願っています。



式辞を述べる祖父江学長



キャンドルセレモニーの様子

看護連携型ユニフィケーション推進事業 看護学部4学年次生授業「看護管理論」実施

令和3年度から開始された看護連携型ユニフィケーション推進事業の一環として、令和6年4月25日（木）に看護学部4学年次生を対象とした看護管理論の授業が実施されました。この授業は、チーム医療、組織マネジメント、病院の医療安全体制の理解を目標としており、病院における多職種へのインタビューとグループワークが実施されました。臨床指導者20名がファシリテーターとして参加し、学生にタイムリーなアドバイスをすることで、学生は話しやすい雰囲気の中でインタビューを実施することができました。また、臨床の視点を的確に捉え、臨

床での実際を知ることによって講義で学んだチーム医療や医療安全への理解が深まり、多職種との情報共有やコミュニケーションの重要性を学ぶことができました。コロナ禍のため十分な臨地実習に臨めなかった学生にとって、今回の授業は病棟以外の新たな知見を得る機会となりました。一方、臨床指導者にとっては、学生の学びについて理解する機会となり、指導力の向上にも繋がりました。今後も継続教育の充実に焦点を当てた教育計画を看護学部と看護部が協同して実施していきます。



薬剤部でのインタビューの様子



グループワーク及び発表の準備



発表の様子

国家試験日程のお知らせ

◆第119回医師国家試験

- ・試験日 令和7年2月8日(土)・9日(日)
- ・合格発表 令和7年3月14日(金)

◆第111回保健師国家試験

- ・試験日 令和7年2月14日(金)
- ・合格発表 令和7年3月24日(月)

◆第114回看護師国家試験

- ・試験日 令和7年2月16日(日)
- ・合格発表 令和7年3月24日(月)

令和6年度第1回大学院医学研究科FD開催

本学では、平成28年度から大学院医学研究科FD(ファカルティ・ディベロップメント)を開催しており、令和6年5月8日(水)午後5時45分から大学本館201講義室において、今年度の第1回目が開催されました。

今回は、講師として佐賀大学医学部国際医療学講座臨床感染症学分野の青木洋介教授をお招きし、「医

師、医療関係者に求められる英語力を如何に養うか」をテーマとしてご講演いただきました。

当日は、大学院医学研究科の多くの担当教員が参加し、今後の研究・教育の質の向上に繋がるものとなりました。医学研究科では、引き続きFDを開催することで、更に授業内容・方法を改善し、向上させて参ります。

大学院医学研究科学生表彰(優秀論文賞)



大学院医学研究科では、学生の研究活動の活性化を図るため、学生が顕著な業績を挙げた場合等の表彰制度を設けています。

この度、令和5年度に修了した大学院生のうち、各研究指導教授から学位論文について推薦があった中、選考の結果、緩和ケアセンターの森直治教授から推薦された永野彩乃氏(臨床医学系緩和・支持医療学専攻)【写真】が「優秀論文賞」として表彰されることとなりました。

永野氏は、老年内科入院患者における嚥下障害の発生と経過を詳細に分析し、特にサルコペニアが嚥下障害の主要な原因であることを特定した上、サル

コペニアによる嚥下障害が他の原因によるものよりも改善しやすいことを明らかにしました。そして、包括的なアセスメント、栄養、リハビリ、歯科の統合的介入が嚥下障害の改善に有効である可能性を示唆しました。この研究は、人口の高齢化が進む現代社会において非常に有意義なもので、評価の高い英文雑誌『Nutrients』に掲載されました。

また、永野氏は、大学院生期間中に急性期病院の脳神経外科病棟で看護師として勤務し、途中、出産や育児で多忙な中、研究に取り組み、筆頭原著論文2本を完成させ、3年で大学院の早期修了を成し遂げました。更に、それ以外にも英文システムティック・レビュー論文を筆頭著者として2本発表するなど、顕著な研究業績を挙げられました。

今後も、表彰される学生が続くことを期待します。

看護実践研究センター キャリア支援部門 看護研究支援セミナー開催

基礎編 看護研究ことはじめ

令和6年6月15日（土）に、基礎看護学の山中真教授による看護研究支援セミナー（基礎編）「看護研究ことはじめ」がオンライン形式で開催されました。県内外から定員を上回る看護職60名の参加がありました。

看護研究の基本の講義では、自分が楽しむという姿勢、すべきことではなく、したいことを行うことが看護研究に取り組む上で重要であるというお話がありました。参加者からは、「研究を始めるに当たり、まず何から始めたら良いのか分かりやすかった。」「初めて看護研究をして躓いた部分があり、看護研究を避けていたが、疑問に答えていただき再び前向きな気持ちになった。」等の感想が寄せられました。また、看護研究の中核となる研究課題の選択におけるポイントについて、料理等、私達の身近なものに

例えた説明は大変好評で、「例えが分かりやすいため、難しい看護研究の手がかりを得ることができました。」「調理を例に出していただいたり、どういうことかを分かりやすく教えていただき理解しやすかった。」等の感想が寄せられました。

昨年に引き続き、講義終了後には自由参加で参加者が講師に質問する「放課後タイム」を行い、講義で学んだ知識を深める質問が挙がりました。また、研究を進めている参加者の悩みに対してもアドバイスがありました。参加者からは、「自由に質問ができて、質問の内容も参考になるものだった。」「他者の質問を聞いて、今後活かせると感じた。」等の感想が寄せられました。

参加者にとって看護研究を身近に感じられるセミナーとなりました。

実践編 看護研究ことおわり

令和6年7月6日（土）に、基礎編同様、山中真教授による看護研究支援セミナー（実践編）「看護研究ことおわり」がオンライン形式で開催されました。県内外から看護職55名の参加がありました。

看護研究の基礎を学んだ前回からステップアップし、看護研究の実際の進め方について講義が行われました。自身の研究課題に対する研究手法、尺度や対象の選択方法等が、具体的な例を用いて説明されました。参加者からは、「具体例がありイメージがしやすかった。」「どのように研究方法を選択したら良いのか分かりやすかった。」等の感想が寄せられました。また、量的研究のデータ分析の導入部分に触れ、各分析方法で何が分かるか、使用する際の注意点等の説明があったことで、自分が集めたデータがどのような結果となっていくのかをイメージすることができ、参加者からは、「統計に関することに苦手意識があったが、分かりやすい講義でした。」という感想が寄せられました。

毎回大好評の「放課後タイム」も講義終了後に行われ、今回は、基礎編終了後のアンケートに寄せられた参加者の質問に対する回答からスタートしました。院内の看護研究の指導方法や注意点、スタッフが看護研究に前向きに取り組めるようなサポート等、



オンラインセミナーを行う山中教授

病院で看護研究を行う環境づくりへの示唆が得られました。また、その後は恒例の質問タイムで、「おすすめの統計ソフトは?」「自作アンケート項目の作成方法は?」等、講義内容を深める質問がありました。参加者からは、「基礎編での質問に対して十分な説明を受けることができた。」「他の方の質問を聞き、自分では思い浮かばなかったことを聞くことができた。」等の感想が寄せられました。

2日間にわたるセミナーを通して、看護研究の始め方から進め方の実際を学ぶことができました。

看護実践研究センター 地域連携・支援部門 「長久手市希望の会」勉強会開催

「長久手市希望の会」は、長久手市内のボランティア団体として登録されている障がいを持つ方とその親の会です。地域社会とも密接に関わり合い、実社会にとけこむことができるように障がい児（者）を育てることを目指して活動されており、昨今の震災の状況から災害時の避難や対策等への不安や関心を持たれています。

そこで、本学では令和6年5月9日（木）午後1時から長久手市児童発達支援センターにおいて「災害時の備え～トイレに困らないために～」をテーマに、地域連携・支援部門の部門員が講師となり勉強会を開催しました。能登半島地震のボランティア活動での経験をもとに、災害による断水時のトイレの使い方や、トイレに困らないための備えについて一緒に考えました。参加者16名のうち約半数が、災害時の備えとして普段から自宅に凝固剤を使用する簡易トイレを備蓄されていましたが、使用した経験はなく、今回は実際の状況を再現することで体験して



凝固剤を使用したトイレの使い方

いただきました。今回の体験を通して、「備蓄しているだけで大丈夫だと思っていた。」「凝固剤を固めた後の感触や、家族分の量も良く分かった。」「異なる環境になったときに子どもが対応できるように自宅で一度やってみようと思う。」等の感想があり、平時の備えの大切さを学ぶ機会となりました。

愛知医療学院大学リハビリテーション学部 早期体験実習の受け入れ

このたび本学では、大学間包括連携協定を締結している愛知医療学院大学からリハビリテーション学部の早期体験実習を受け入れることとなりました。本実習プログラムは、事前学習として令和6年5月23日（木）に本学リハビリテーション医学講座の尾川貴洋教授によるオンライン講義から始まり、6月5日（水）及び12日（水）の2日間にわたって指導教員に付き添われた愛知医療学院大学の新生83名が本学の施設を熱心に見学しました。

6月の実習スケジュールは、両日ともに大学本館講義室にて病院説明があり、運動療育センター、リハビリテーションセンター、ドクターヘリ、ヘリポート及び格納庫の見学が行われ、約3時間の充実した内容となりました。各施設の見学時には、リハビリテーション部の安江由美子技師長始め、フライトドクター及びフライトナースとの質疑応答が活発に行われました。



ドクターヘリ見学時の記念撮影

愛知医療学院大学の指導教員からは、「学生は臨床現場に身を置き、直にPT・OTの業務を見学できたことで、改めて目指すべき目標が確認できたようです。また、希少な機会であるドクターヘリの見学も学生にとっては刺激になりました。」との感謝の言葉が届きました。

救急・災害管理棟の完成及びTACU病棟の運用開始

令和6年2月15日（木）、中央棟西側に救急・災害管理棟【写真】が完成しました。

新棟には救命救急科医局、当直医師用仮眠室、シャワー室のほか、大規模災害発生時に救援活動の指揮所として使用することを想定した多目的室などが設けられました。

新棟隣接地には、ドクターカー、病院救急車を配置するほか、令和4年度に整備したコンテナ医療ユニット（CoMU[®]）を配置し、電源、電子カルテネットワーク、給排水設備を接続して新棟と一体的に運用します。

また、令和6年6月3日（月）からは、新たな病棟としてTACU（Transitional Acute Care Unit、読み方：タキュー）病棟の運用が開始されました。

TACUは、救急搬送された患者さんや救急外来を



受診した患者さんの内、症状等に応じて必要と判断した患者さんに、医療安全上のリスク防止の観点から経過観察目的で1泊の入院をしていただくための病棟になります。

新たな病棟を活用し、本院が目標として掲げている「断らない救急」の実現に向けて、より一層力を尽くして参ります。

大学病院の中央診療部に新たな部門設置

心不全包括管理センター

令和6年5月1日（水）付けで、「心不全包括管理センター」が新設されました。心不全患者数は爆発的に増加しており、愛知医科大学病院近隣地域でも新規心不全発症数は毎年300～800例と推定されています。心不全は病期をステージ分類されており、発症すると徐々に病状が悪化し最終的には治療抵抗性となるため、早期からの介入が推奨されていますが、現状ではまだ啓蒙など不十分な状況です。循環

心不全包括管理センター・部長 天野 哲也

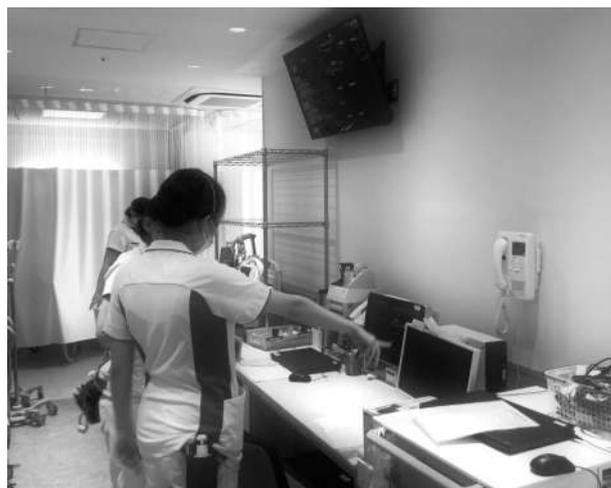
器内科では、この問題に取り組むべく心不全包括管理センターを立ち上げました。

心不全早期発見シートを作成し近隣医療機関に配布して早期発見介入することの啓蒙及び心不全発症以降の症例では従来の治療に加え、心臓リハビリテーションプログラムを充実させ心不全再増悪予防に努めることを軸として、地域と密に連携して心不全診療に取り組んでいく所存です。

脳卒中ケアユニット（Stroke Care Unit）稼働開始

本院では12B病棟を改築し、令和6年4月から脳卒中ケアユニット（SCU：Stroke Care Unit）6床の稼働を開始しました。

SCUは、脳梗塞及び脳出血急性期の患者さんに対し、医師、看護師、理学療法士らによる専門チームが入院時から24時間体制で集約的に治療管理を行う運用体制としています。これにより、本院における脳卒中患者の死亡率及び再発率の更なる低下、早期回復、長期的なADL（日常生活動作）とQOL（生活の質）の向上に繋げていく所存です。



愛Crewの業務拡大！車椅子移乗・移送研修実施

令和3年7月に、夜間看護補助として学生アルバイト「愛Crew」を配置し3年が経過しました。看護部管理室では病院事務部診療支援課と連携し、看護師が本来の業務に専念できるよう看護業務の負担軽減を目指し、愛Crewの業務拡大を推進しています。現在、愛Crewは数多くの間接ケア（周辺業務）・直接ケアを行い、現場において大変重要な存在になっています。

令和6年6月には看護部管理室と看護業務負担軽減委員会が協働し、業務拡大に向けた10日間の集合研修が行われ、合計118名の愛Crewが受講しました。研修では、車椅子への移乗・移送に関する基礎知識、医療安全対策について講義を行い、その後、業務手順に沿って演習を行いました。演習では、愛Crew役・患者役・看護師役を体験し、車椅子移乗・移送についての学びを深めました。積極的に研修に参加した愛Crewから、「看護師と一緒に働くことができ、学びも多く、楽しい。」「看護師、患者さんのためにもっと仕事がしたい。」等の声が聞かれ、業務拡大に対する意欲を感じました。看護師の配置人数が少なくなる夜勤帯に愛Crewが患者搬送を行うことは、看護師が病棟外に出ることが減り患者さんの安全に繋がります。



車椅子移乗・移送を体験

今後も、愛Crewの業務拡大を推進するとともに、看護師の業務負担軽減だけでなく、次世代の医師・看護師となる愛Crewの人材育成として、楽しく仕事をしながら学べる環境を整備して参ります。

看護機能連携ネットワーク会議・懇親会開催

令和6年6月8日（土）に名古屋マリオットアソシアホテル17階コスモスにおいて、看護機能連携ネットワーク会議と懇親会が同時開催されました。本ネットワークは、本院始め、分院を含む近隣14病院、長久手市長寿課及び長久手市在宅医療・介護連携支援センター（やまびこ長久手）で構成され、看護の機能を連携させ患者さんと家族の生活を持続的に支えるため、活発な議論と実務的な取り組みを行っています。当日は、祖父江元 理事長，佐藤有美長久手市長を始め、ネットワーク参加施設から多職種を含めた78名が参加しました。

会議では、看護部の井上里恵看護部長から4年間の活動報告と謝辞があり、救急集中治療医学講座の渡邊栄三教授から新たに開設されたTACU（経過観察入院病棟）を始め、本院の救急医療の取り組みについて紹介がありました。

懇親会では、道勇学病院長，佐藤市長のごあいさ



あいさつをする祖父江理事長

つに続き、青和会中央病院の青山貴彦病院長（瀬戸旭医師会副会長）の乾杯で始まり、連携病院の病院長・看護部長からごあいさつがありました。コロナ禍を経て、久しぶりの対面での交流となり、参加者からは「顔が見えることで横の繋がりをしっかり感じることができた。」などの感想があり、会は盛会裡に終了しました。

尾張旭市議・長久手市議による病院視察の実施

令和6年5月14日（火）午後2時から、尾張旭市及び長久手市の市議有志等約50名が来学し、基幹災害拠点病院の指定を受けている愛知医科大学病院の施設及び設備を見学されました。

当日は、本学災害医療研究センターの教員による5題の講演（①災害拠点病院について、②災害時の医療提供体制について、③DMAT・JMATの体制について、④発災前、災害時、発災後における連携について、⑤日常から必要な取り組みについて）を聴講していただき、その後4班に分かれて、ドクターヘリ、医療コンテナ、非常用浄水装置、受水槽、免震構造、発電機棟、液体酸素の七つの施設及び設備の見学が行われました。

施設及び設備見学では、活発な質疑応答が行われ、尾張旭市と長久手市における災害対策等への関心の高さが窺えました。本院では、今後も関係各所との連携を図り、より一層の災害対策に努めて参ります。



ドクターヘリの視察



病院免震構造の視察

令和6年能登半島地震活動報告会開催

令和6年5月9日（木）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、令和6年能登半島地震活動報告会が開催され、教職員や学生130名が参加しました。

本院は愛知県の基幹災害拠点病院として、県や厚生労働省DMAT事務局を始めとする自治体及び関係機関からの要請に応える形で、発災翌日の令和6年1月2日（火）から2月24日（土）までの期間に延べ252名の職員を派遣しました。

報告会では、本院の病院災害対策本部長である道勇学病院長からあいさつがあり、活動に従事した9名の職員から病院災害対策本部、DMAT及びDPAT隊の活動を始め、隣県の基地病院と協働して活動したドクターヘリ、コンテナ医療ユニット（CoMU[®]）の被災地への派遣、愛知県による石川県内の高齢者施設避難者の受け入れ活動等について、統計資料や能登医療圏の地図・現場の写真等を交えて詳細な報告がありました。

災害医療研究センターの津田雅庸教授からは、被災地の多くが高齢化の進んだ地域だったことや、道



報告会の様子

路の損壊などで被災地域へのアクセスが困難だったことが特徴として挙げられました。DMAT、DPAT、ドクターヘリ及びコンテナ医療ユニット（CoMU[®]）の活動においても、各隊のミッションや活動内容について振り返りがあり、出動を支えた関係者への謝辞と今後想定される南海トラフ地震に向けて準備が必要であると強調されました。

最後に、祖父江元 理事長から「災害医療は進化している最中であり、地域医療を支えるための準備が大切である。」と締めくくられました。

活動報告会 プログラム

「災害概要及び病院災害対策本部の活動」	災害医療研究センター 病院管理課	津田雅庸教授 堤 啓介主任
「ドクターヘリの活動」	看護部	阿藤紋奈看護師
「DMATロジスティックチームの活動」	救急診療部	加納秀記教授
「DMATの活動」	看護部	川谷陽子看護師長
「DPATの活動」	看護部 看護部	田島貢輔看護師 佐藤 輔看護師
「コンテナ医療ユニットの活動」	救急集中治療医学講座	渡邊栄三教授
「高齢者施設避難者受け入れについて」	災害医療研究センター	小澤和弘シニア研究講師

愛知医科大学メディカルセンター広報誌『ひいらぎ』Vol. 5 病院広報アワード2024広報誌部門最優秀賞受賞

愛知医科大学メディカルセンターで発行している病院広報誌『ひいらぎ』Vol. 5が、医療・介護の総合情報サイト「CBnews」の主催する「病院広報アワード2024広報誌部門最優秀賞」を受賞しました。

病院広報アワードとは、素晴らしい病院広報事例を表彰する年に一度の式典です。病院広報の事例を広く集めて共有し、優れた病院を表彰することで、病院広報の活性化を目指している同アワードは、広報誌部門を始め五つの部門があり、2024年度は全国252病院がエントリーしました。

令和6年6月27日（木）には、広報誌部門の二次審査を通過した6病院によるプレゼンテーションがオンライン形式で行われ、メディカルセンターからは、病院を代表して『ひいらぎ』制作チームリーダーである医療技術部医療福祉相談室の嘉村紗也加主任（社会福祉士）が発表を行いました。視聴者による投票の結果、本誌が最多投票数を獲得し、広報誌部門の最優秀賞となりました。

その後、令和6年7月10日（水）東京ビッグサイトにおいて、表彰記念式典及び各部門の最優秀賞を受賞した病院による、「病院広報アワード大賞」を決めるファイナルプレゼンテーションが開催され、メディカルセンターも出席しました。惜しくも大賞は逃しましたが、広報部門全体の3位となることができ、嘉村主任からは「多職種で構成されたチームによる、職員一丸となった広報誌制作が評価されて良かったです。」との感想がありました。

本誌は、「伝わる、繋がる、拡がる」をコンセプトに、読者なら何が知りたいかを考えながら、看護師や医療職員、事務職員がメンバーとなって制作している広報誌です。患者さんやそのご家族と日々接

広報担当・広報誌部門	
ファイナル進出病院（最優秀賞）	
愛知医科大学メディカルセンター	255票
恵寿総合病院	249票
千船病院	190票
愛知国際病院	180票
琵琶湖大橋病院	168票
佐世保中央病院	153票

病院広報アワード2024広報誌部門セミファイナル投票結果



嘉村主任



表彰式での様子



記念品の楯・賞状とともに病院長への報告

している職員だからこそ知り得るニーズを汲み取り、内容を決めています。これまでには、入院患者さんや職員の1日の過ごし方、職員の制服紹介、薬剤師による薬のQ&Aなどの記事を掲載しています。

病院ホームページからも閲覧可能ですので、ぜひご覧ください。

眼科クリニックMiRAI 「近視ってなあに？親子Deワークショップ」開催

令和6年6月16日（日）午後2時からメニコンシアター Aoiにおいて、愛知医科大学眼科クリニックMiRAIと株式会社メニコンが主催する「近視ってなあに？親子Deワークショップ」が開催されました。本イベントには、タレントの鈴木亜美さんをスペシャルゲストに迎え、多くの親子が参加しました。【写真】

トークセッションでは、近視進行抑制寄附講座の柴田藍助教と岡部有希子視能訓練士が、近視の仕組みや予防策、就寝中に近視矯正ができるオルソケラトロジーといった最新の治療法について詳しく説明しました。1日2時間以上の自然光下での生活が近視抑制に繋がることや、暗い場所で読書をするのが必ずしも視力の悪化に繋がるものではないといった豆知識に対し、子供達の関心が集まりました。

イベント後には、視力検査コーナーや親子で楽し



める体験型展示「みるパーク」も開催され、視力に関する知識を深める機会となりました。

本学は令和4年から株式会社メニコンとの産学連携「近視進行抑制寄附講座」を開設しています。今後も近視研究を推進し、子供の視力保護に貢献して参ります。

愛知医大サービス株式会社 大学オリジナルグッズ「クルトガ」デザイン一新

愛知医大サービス株式会社では、様々な愛知医科大学オリジナルグッズの企画・販売を行っており、この度、三菱鉛筆のシャープペンシル「クルトガ」のデザインが一新されました。大学名のロゴを漢字から英字に変更したことにより、落ち着いた旧デザインに比べてスタイリッシュなイメージになりました。大学のイメージカラーに近い鮮やかなブルーと、病院のイメージカラーに近い明るいライムグリーンの2色展開となっています。「クルトガ」は、書かたびに芯が少しずつ回転するので、常に尖った状態で安定して細い字を書くことができ、芯の粉が出にくいという特長があります。是非一度この書き心地をお試しください。

また、書いた字をこすって消すことのできるパイロットのボールペン「フリクションボール」、滑らかな書き味の三菱鉛筆のボールペン「ジェットストリーム」、ドクターヘリのイラストが入った付箋等、



本学オリジナルグッズ

新シャープペンシル
「クルトガ」

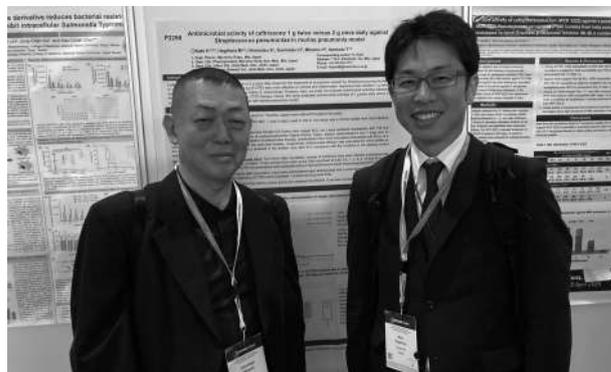
他にも様々な文房具を取り揃えておりますので、是非お役立てください。

分子疫学・疾病制御学寄附講座 萩原 真生准教授 第98回日本感染症学会学術講演会 第72回日本化学療法学会総会 合同学会 英語最優秀演題賞受賞

分子疫学・疾病制御学寄附講座の萩原真生准教授【写真】が、令和6年6月27日（木）～29日（土）に神戸国際会議場で開催された第98回日本感染症学会学術講演会と第72回日本化学療法学会総会の合同学会において、英語最優秀演題賞を受賞しました。

この賞は、同学会において萩原准教授が英語で発表された演題「*Clostridium butyricum*-induced 10-oxo-octadecanoic acid elicits anti-influenza virus pneumonia effects」が特に優秀であると評価され、授与されたものです。

受賞した萩原准教授からは、「この度は、荣誉ある賞をいただき、大変光栄に思います。研究の遂行並びに演題の発表にご助力をいただいた、臨床感染



左から三嶋教授及び萩原准教授

症学講座の三嶋廣繁教授を始め全ての先生方に御礼申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。」との感想がありました。

法医学講座 星野 伸忠助手 令和6年度法医技術功労賞受賞

法医学講座の星野伸忠助手が、令和6年6月5日（水）から7日（金）にかけて岡山コンベンションセンターで開催された第108次日本法医学会学術全国集会において、令和6年度法医技術功労賞を受賞しました。

この賞は、大学法医学教室及びこれに準ずる機関に所属し、15年以上法医業務に従事してきた技術系職員で、高い技術的専門性を有し法医解剖の補助並

びに諸検査の実施を通じて法医学の発展に貢献してきた者に授与されるものです。

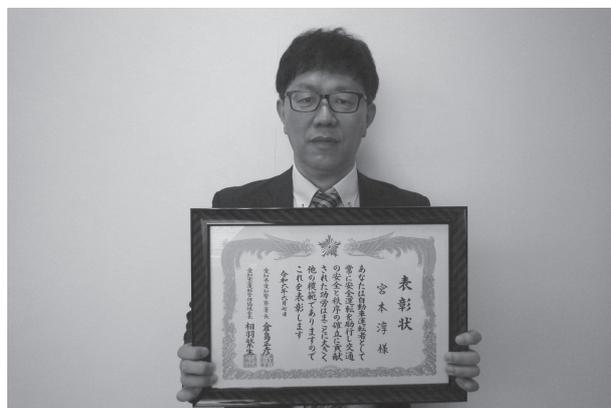
受賞した星野助手からは、「この度は名誉ある法医技術功労賞をいただき、大変光栄に存じます。これも法医学講座の妹尾洋教授を始め、皆さまのご指導ご鞭撻のおかげと感謝しております。今後も一層精進して参りたいと思います。」との感想がありました。

優良自動車運転者表彰

模範的な運転を行い、交通の安全確保に貢献している方に対し、愛知警察署、交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から毎年「優良自動車運転者表彰」が行われています。

今年は、令和6年6月7日（金）に医学部学生部長である心理学の宮本淳教授【写真】が表彰を受けました。この表彰は、学生を指導する立場として自ら安全運転を心掛け、長年無事故・無違反を続けていることが評価されたものです。

宮本教授からは、「このような表彰をいただき身の引き締まる思いです。これからも心にゆとりをもって優しい運転を心掛けていきたいです。」と感



想をいただきました。

看護部 井上 里恵看護部長 令和6年度愛知県看護協会会長表彰受賞

看護部の井上里恵看護部長【写真】が、令和6年6月19日（水）に名古屋市公会堂で開催された令和6年度愛知県看護協会通常総会において、令和6年度愛知県看護協会会長表彰を受賞しました。

この賞は、愛知県看護協会の活動に広く貢献したことに対して授与されるものです。

受賞した井上部長からは、「このたびは表彰をいただきましたこと、誠に光栄に思っております。平成23年から研究助成委員、特定行為研修検討委員、認定看護教育課程教員会委員、認定看護管理者教育課程サードレベル講師等の協会活動に携わって参りました。直近4年間は看護師I職能理事として、特定行為研修の推進、看護補助者の活用促進、多職種とのタスク・シフト／シェアの促進のため、愛知県



の病院代表として取り組みました。理事の任期は終わりましたが、病院で働く看護職がますます輝くように、引き続き精進したいと思います。」との感想がありました。

看護部 岡本 悦子副部長 愛知県看護功労者表彰受賞

本院看護部の岡本悦子副部長【写真】が愛知県看護功労者表賞を受賞しました。

これは、看護職員として長年業務に従事し、顕著な功績のあった者に授与される賞であり、令和6年5月15日（水）愛知県産業労働センター（ウインクあいち）において開催された令和6年度愛知県看護大会の席上で表彰式が行われました。

表彰を受けた岡本副部長からは「この度は名誉ある賞をいただき大変光栄に存じます。平成元年に愛知医科大学病院に入職し、ここまで活動することができたのは看護部を始め、病院・大学の皆さまのご協力・ご指導の賜物だと深く感謝しております。また、今回の受賞に当たっては、看護連携型ユニフィケーション事業のため看護学部へ2年間赴任し、看



護基礎教育から卒後教育へのシームレスな教育体制の構築についての活動が評価されました。これからも、ご指導ご鞭撻を賜りながら活動していきたいと思っております。」との感想がありました。

第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 学生ポスター発表にて医学部学生が最優秀賞受賞

地域総合診療医学寄附講座 教授（特任） 宮田 靖志

令和6年6月7日（金）～9日（日）アクトシティ
浜松で開催された第15回日本プライマリ・ケア連
合学会学術大会に医学部学生10名及び専攻医1名と共
に参加しました。昨年、名古屋で開催された同学会
では学生ポスターセッションにおいて6演題を学生
が発表し、最優秀賞、優秀賞1位及び優秀賞3位を
受賞しました。今回は3演題を発表し、その内の1
演題がなんと昨年に引き続き最優秀賞を受賞するこ
とができました。

受賞した4学年次生の金沢亜耶さんによる「地域
医療臨床実習の訪問診療で学生は何を学んだのか～
今後の地域医療実習のあり方を考える」は、過去2
年間のクリニカル・クラークシップA地域医療の報
告書に掲載されている実習レポートから、本学の医
学生が訪問診療でどのようなことを学んだのかをま
とめたものです。需要が増大する在宅医療ですが、
まだまだ卒前教育では十分な学修機会が得られてい
るとは言えない領域です。本学では、地域医療実習
でお世話になっている施設の指導医のご配慮により、
学生が訪問診療、訪問介護に参加する機会をいただ
いており、在宅医療に関する学生の学びは徐々に深
まってきています。今回の受賞においては、数か月
にわたり金沢さんがじっくりとポスター作りに励ん
でくれたことはもちろんのこと、訪問診療の機会を
学生に与えてくださっている学生実習受け入れ施設
の全ての職員の皆さまの賜物と思っており、心より
感謝しています。

残念ながら受賞を逃した5学年次生の柴田真友子
さん及び山田遥日さんによる「患者さんはライフス
トーリーで何を物語るのか～学生のライフストー



参加者による記念撮影
(愛知医大のAを指文字で作り受賞を喜びました。)



受賞ポスター前で賞状を持つ
金沢さんと宮田教授（特任）

リー聴取の分析から～」と4学年次生の村田有衣さ
んによる「愛知県主催4大学地域卒学生研修会の取
り組み」の2演題も大変素晴らしい内容で、他の受
賞演題に全く引けを取らないものでした。多くの聴
衆から質問やコメントをいただいたことが、そのこ
とを物語っていました。

プライマリ・ケア、総合診療に関心を持つ学生は
徐々に増えてきており、学会活動にも活発に参加し
てくれるようになってきております。今後の学生た
ちの活躍が楽しみになる受賞及び学会参加となりま
した。

海外研修派遣研修記

本学では、教育、研究活動等の向上に寄与するため、教員の海外研修派遣を実施しています。この度、医学部解剖学講座の名仁澤英里助教が海外研修へ参加されましたので、その研修記をご紹介します。

名仁澤 英里 (解剖学講座・助教)

研究課題：早産児における社会的刺激に対する fNIRSを用いた皮質反応の測定
研修先：モナッシュ大学（オーストラリア・メルボルン）
研修期間：令和5年6月30日～令和6年6月29日

私はこの度、本学の海外派遣事業により、オーストラリアのメルボルンにあるMonash University（モナッシュ大学）に、1年間留学する機会をいただきました。モナッシュ大学はビクトリア州メルボルン近郊クレイトンに本部を構え、オーストラリアの研究重点8大学に属する、国を代表する研究型総合大学です。クレイトンキャンパスの近くには、モナッシュメディカルセンター及びモナッシュ小児病院、関連研究施設が集まり、医学教育・研究の場が充実しています。

私は、主にモナッシュ小児病院にて、fNIRSという装置を用いて、早産児が人の顔や顔の動きを見た時の脳の活性を調べる臨床研究に携わりました。この度、私が師事したのは、新生児の脳を専門とする小児科医のFlora Wong准教授です。私が解剖学講座の教員として注目している研究領域は全身にわたりますが、脳の研究に携わるのは今回が初めての経験でした。Wong先生は、特に研究者としての根本的な思考力を重視しており、他分野から来た私に最適な助言と指導で最大限の教授をしてくださいました。そのお陰で、派遣期間中には国際学会にて発表の機会をいただき、今後は研究成果を国際誌へ投稿することを予定しています。慣れない言語で、新しい研究分野を学ぶことは自身にとって高いハードルでしたが、非常に実りの多い1年間となりました。

メルボルンは以前、人口がオーストラリアで二番目に多い都市でした。しかし、令和3年にシドニーを抜き、現在は一番大きな都市となっています。これには移民の急増が大きく関わっており、メルボルンだけでも1年間で約15万人の人々が流入しています。その大胆かつ寛大な風土のお陰で、メルボルンは多種多様な文化が入り混じり、例えば宗教・食事・言語・服装などにおいて、様々な価値観をもつ人々が共存しています。メルボルンの素晴らしいところは、そのような多文化社会の中でも、お互いの文化を尊重し、世界でもトップクラスの治安の良さが維持されている点です。私も、一留学生としてメルボルンの多文化社会の一部となりましたが、非常に居



恩師のFlora Wong先生と（筆者：左）



休暇を利用して訪れたウルル

心地が良く、自然に様々な文化を受け入れることができました。

モナッシュ小児病院内には、NICUや医局の正面に誰でも自由に使える研究スペースがあります。そこには、病院で働く医師や看護師の他に、医学生や大学院生、ポスドクの研究者や留学生、研究助手など様々な立場の人がいます。また、大勢の留学生がアジアやヨーロッパ諸国から集まってくるため、常に国際的な研究環境が存在しています。研究を通して、様々な立場、バックグラウンドの人々と交流することで、物事の捉え方や表現方法の違いなど、新たな気づきが沢山ありました。このように、メルボルンで過ごした1年間は、日本では経験できないような刺激的な出来事を通じて、自身に成長の機会をもたらしてくれました。帰国後の予定としては、今回、厳しくも愛のある指導で、私に新しい研究分野の扉を開いてくださったWong先生と、引き続き共同研究を続けていきます。

最後に、このように大変充実した1年間の留学生活という機会を与えてくださった愛知医科大学の関係者の皆さまと、深い理解と協力体制のもと、私を送り出してくださった解剖学講座の皆さまにこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

学 術 振 興

研究助成等採択者

◇一般社団法人日本糖尿病学会 若手研究助成
・氏 名 三浦絵美梨（内科学講座(糖尿病内科)・助教)
研究題目 クローン性造血と糖尿病性神経障害
助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人第一三共生命科学研究振興財団
PIセットアップ研究助成
・氏 名 丸山健太（薬理学講座・教授）
研究題目 RNAウイルス感染で死ぬのはなぜか？
助成金額 4,000,000円

◇公益財団法人立松財団
特別研究助成（複数年）
・氏 名 永沢亮（感染・免疫学講座・助教）
研究題目 3D組織工学による細菌性血管疾患評価システムの構築
助成金額 3,000,000円

◇公益財団法人東洋医学研究財団
研究・調査助成
・氏 名 鈴木進（研究創出支援センター・教授(特任)）
研究題目 和漢薬のがん免疫療法に対する補強効果
助成金額 500,000円

◇公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団
国内研究助成
・氏 名 永沢亮（感染・免疫学講座・助教）
研究題目 水環境未培養微生物の培養化に向けた基礎知見の創出
助成金額 900,000円

◇第24回日本医学会総会記念医学振興基金
研究助成
・氏 名 小松紘司（生理学講座・講師）
研究題目 卵胞発育期の不飽和脂肪酸摂取量が卵子に及ぼす影響の解明
助成金額 1,000,000円
・氏 名 兵頭寿典（生化学講座・准教授）
研究題目 ゲノム編集治療への応用を見据えた高効率Prime editorの研究開発
助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人武田科学振興財団
武田報彰医学研究助成
・氏 名 丸山健太（薬理学講座・教授）
研究題目 RNAウイルスに対する痛覚神経性免疫寛容の包括的研究
助成金額 30,000,000円

学位授与

◆大学院医学研究科



周 軒

学位授与番号 甲685号

学位授与年月日 令和6年6月13日

論文題目：「Neurotrophin[®]
ameliorates chronic pain

associated with scar formation in a mouse model: A gene expression analysis of the inflammatory response (ノイロトロピン[®]がマウスモデルにおける癒痕形成に伴う慢性疼痛を改善: 炎症反応の遺伝子発現解析)」



河野 伸二郎

学位授与番号 乙432号

学位授与年月日 令和6年6月13日

論文題目：「Transcathal
Canthopexy for Involutional

Lower Eyelid Entropion Corrects Horizontal Laxity (退行性下眼瞼眼瞼内反症に対する埋没糸による外眦形成術は水平方向の弛緩を改善する)」



田邊 すばる

学位授与番号 乙431号

学位授与年月日 令和6年6月13日

論文題目：「Utility of new FDG-
PET/CT guidelines for

diagnosing cardiac sarcoidosis in patients with implanted cardiac pacemakers for atrioventricular block (房室ブロックにて心臓ペースメーカー植え込みを行った患者における、心臓サルコイドーシス診断のためのFDG-PET/CTの有効性)」

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員として来学された方をご紹介します。(敬称略)



ステファノ コウイゴウクス
Stefano Gouigoux

国 籍：イタリア

現 職：トリエステ大学マジョー
レ病院アイセンター、眼科
科研修医

受入講座：眼科学講座

受入期間：R6.4.1 ~ R6.6.30 (3か月)

研究課題：上眼瞼における血管・リンパ管の解剖特
性の解明と、手術後の組織腫脹を最小限
に抑える手術方法の開発

令和6年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定

令和6年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
学術変革領域研究（A） （補助金）	武内恒成 医学部教授 生物学	3,600	1,080	人工シナプスコネクターによる神経再編成と障害回復モデルからの新規適応回路センサス
〃	武内恒成 医学部教授 生物学	3,500	1,050	人為的・人工的なマトリックス環境への介入－神経再生ECM機能のマルチモーダル統合解析－
〃	宮田淳 医学部教授 精神科学	7,300	2,190	中脳－線条体の予測誤差・サリエンスの機能的・構造的局在から妄想・幻覚を解明する
基盤研究（B） （基金）	井上真輔 医学部准教授 メディカルセンター	1,800 （継続）	540	ホルモンの変動に起因する運動器の痛みを解明する多面的集学研究
〃	前田圭介 医学部教授(特任) 栄養治療支援センター	1,700 （継続）	510	サルコペニアの摂食嚥下障害の評価と介入法確立に関する老年栄養学的臨床研究
〃	都築忍 医学部教授(特任) 生化学	3,100 （継続）	930	隠れドライバーから見た、難治性リンパ性白血病の成立・維持機構の解明
〃	岡田洋平 加齢医学研究所 神経iPS細胞研究部門教授	4,800 （継続）	1,440	疾患iPS細胞を用いた神経筋接合部を標的とした運動ニューロン疾患の病態解明
〃	伊藤清顕 医学部教授 内科学(肝胆脾内科)	4,300 （継続）	1,290	B型肝炎ウイルス侵入機構の解明と侵入阻害剤による感染制御
〃	内藤宗和 医学部教授 解剖学	3,500 （継続）	1,050	超微細気泡を用いた虚血再灌流障害の軽減方法の確立
〃	松永昌宏 医学部講師 衛生学	5,800 （継続）	1,740	能動的推論による自然の防御シグナルとしての孤独感の検討
〃	曾根淳 加齢医学研究所 講師	2,800 （継続）	840	神経核内封入体病の病態解明と根本的治療法の開発
〃	林櫻松 医学部教授(特任) 公衆衛生学	6,600	1,980	血液プロテオーム解析による膵がん早期発見のためのバイオマーカーの探索・同定
〃	武内恒成 医学部教授 生物学	4,700	1,410	人工シナプス接続による慢性期脊髄損傷回復：AI要素抽出からのヒト・モデル系統合へ
〃	高木秀和 医学部准教授(特任) 感染・免疫学	3,300	990	なぜ特定の地域だけに人獣共通感染マラリアの再興が起こるのか
基盤研究（C） （基金）	尾張慶子 医学部助教 疼痛医学	500 （継続）	150	若年慢性疼痛における睡眠習慣の調査およびアセスメントツールとしての睡眠検査の検討
〃	宮原弘明 加齢医学研究所 教授	0 （継続）	0	MELAS剖検脳を用いた脳卒中様発作部位のミトコンドリア機能解析
〃	大宝和博 客員研究員	500 （継続）	150	転移性脳腫瘍の病態に適合した物理的・生物学的原体性の高い高精度光子線照射法の確立

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (基金)	岩山秀之 研究員	100 (継続)	30	MCT 8 異常症の新規診断法と治療法の開発および政令指定都市を対象とした大規模解析
〃	恒川新部 医学部 内科学(糖尿病内科), 教授(特任)	300 (継続)	90	自己免疫性モノアミン合成障害による新規低血圧疾患概念の確立
〃	青山恵美 看護学 感染看護学, 准教授	400 (継続)	120	医療施設内結核感染予防のための結核健診受検職員の継続支援システムの構築と臨床応用
〃	小林孝 分子医学研究所 助教	1,000 (継続)	300	ヘパラン硫酸の糖鎖構造: iPS細胞分化シグナルの選択的制御
〃	佐藤元彦 医学部 生理学, 教授	900 (継続)	270	G蛋白活性調節因子を標的とした治療の基礎検討
〃	佐藤啓部 医学部 病理診断学, 講師	600 (継続)	180	リンパ球豊富型およびリンパ球減少型古典的ホジキンリンパ腫の発生機構の解明
〃	村上秀樹 客員研究員	400 (継続)	120	悪性胸膜中皮腫の分子病理診断パネルの構築と分子サブタイプ特異的マーカーの同定
〃	池野正史 医学部 生物学, 教授(特任)	600 (継続)	180	悪性グリオーマの遺伝子細胞治療に向けたヒト歯髄幹細胞の加工と製剤化
〃	熱田直樹 医学部 内科学(神経内科), 准教授	1,000 (継続)	300	臨床ゲノム情報と結びついた神経病理解析による筋萎縮性側索硬化症の多様性解明
〃	笹倉寛之 医学部 生物学, 特別研究助教	1,000 (継続)	300	人為的シナプス架橋による失われた中枢神経機能の回復
〃	中村亮一 医学部 内科学(神経内科), 講師	1,000 (継続)	300	筋萎縮性側索硬化症のmissing heritabilityに関わる遺伝子の探索
〃	伊藤嘉規 医学部 小児科学, 教授(特任)	1,000 (継続)	300	薬剤耐性・変異株解析可能なリアルタイム次世代シーケンスによる重症感染症迅速診断
〃	増渕悟 医学部 生理学, 教授	1,000 (継続)	300	不眠を伴う睡眠時無呼吸症候群(COMISA)のモデル動物作成と解析による病態解明
〃	細川好孝 医学部 生化学, 教授	900 (継続)	270	癌抑制遺伝子BAP 1 を標的とした胸膜中皮種新規阻害薬の開発
〃	花村一郎 医学部 内科学(血液内科), 教授(特任)	1,000 (継続)	300	ゲノム編集を利用したKRAS変異骨髄腫に対する新規治療標的薬の探索
〃	萩原真生 医学部 分子疫学・疾病制御学寄附講座, 准教授	100 (継続)	30	酪酸産生菌によるウイルス性呼吸器感染症に対する治療効果の検討とその作用機序の解明
〃	乾匡範 医学部 感染・免疫学, 講師	1,100 (継続)	330	TLR 4 を標的とした新規免疫賦活効果の分子基盤の解明と感染症予防への応用
〃	姫野龍仁 医学部 内科学(糖尿病内科), 准教授	1,000 (継続)	300	糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch連関の異常と再生機構の破綻
〃	畑山直之 医学部 解剖学, 准教授	1,000 (継続)	300	移植臓器の体外治療を目指した新たな生理活性ガス送達技術の確立
〃	中野正吾 医学部 外科学(乳腺・内分泌外科), 教授	800 (継続)	240	ICG蛍光マーキングによる非触知乳癌に対する手術ナビゲーションシステムの開発

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (基金)	シバスタン カルナン 医学部 講師 医化学,	1,100 (継続)	330	NF 2/CDKN 2A欠失型中皮腫における脂質代謝異常を標的とした分子標的薬の開発
〃	加納 秀記 医学部 教授 救急診療部,	400 (継続)	120	急性呼吸促進症候群に対する造血幹細胞移植：炎症制御と血管再生の試み
〃	宮地 茂 医学部 教授 特命教授	600 (継続)	180	脳血管内治療における遠隔手術支援ロボットの開発
〃	大須賀 浩二 看護学 教授 病態治療学,	600 (継続)	180	脊髄損傷後の歯髄幹細胞治療の作用機序の解明と更なるadjuvant治療の確立
〃	池本 竜則 医学部 准教授(特任) 整形外科,	400 (継続)	120	免疫調整薬による変形性膝関節症の重症化予防効果の検証：動物モデルによる基礎研究
〃	瓶井 資弘 医学部 教授 眼科学,	1,000 (継続)	300	網膜神経細胞保護作用を介した新たな網膜色素変性治療の検討
〃	早稲田 勝久 医学部 教授 医学教育センター,	900 (継続)	270	臨床実習評価システムの包括的再検討と獲得する診療技能への影響：良医育成を目指して
〃	黒澤 昌洋 看護学 准教授 臨床実践看護学,	500 (継続)	150	ナース・プラクティショナー(仮称)制度の構築に向けた養成教育カリキュラム検討
〃	泉 雅之 看護学 教授 臨床実践看護学,	400 (継続)	120	診療看護師・研修医・医学生の医療面接におけるコミュニケーションの特徴
〃	谷口 千枝 看護学 教授 成人看護学,	900 (継続)	270	心血管疾患患者の退院後再喫煙予防のための禁煙支援プログラムの開発
〃	坂本 真理子 看護学 教授 地域・在宅看護学,	1,400 (継続)	420	地域で活動する保健師の異文化間看護能力育成プログラムの開発
〃	深見 保之 医学部 准教授(特任) 外科学(消化器外科),	400 (継続)	120	術前からEMSを用いた膀胱癌サルコペニア予防プログラムの多施設共同開発
〃	松下 宏 客員研究員	800 (継続)	240	骨強度の観点から女性アスリートの妊娠・出産後の競技復帰を促進するための基礎的研究
〃	森 直治 医学部 教授 緩和ケアセンター,	1,200 (継続)	360	がん悪液質の日本人における診断基準の確立
〃	関 泰輔 医学部 教授(特任) メディカルセンター,	600 (継続)	180	運動器疾患をターゲットとした生活習慣・栄養摂取に関するバイオマーカー探索
〃	大橋 渉 医学部 准教授 臨床研究支援センター,	1,300 (継続)	390	教員の性犯罪と小児性愛障害の関係～教員免許状の欠格事由になり得るか?～
〃	幡野 その子 分子医科学 研究所 助教	1,200 (継続)	360	間葉系幹細胞の機能を制御するコンドロイチン硫酸の構造
〃	服部 聡子 研究創出支援センター 教授	1,200 (継続)	360	マウスの細微な動き情報をデータ要素とした行動表現型の評価方法の開発
〃	佐藤 麻紀 医学部 講師 I R 室,	1,700 (継続)	510	季節変動遺伝子の網羅的探索による冬季うつ病の解明
〃	山村 彩 医学部 講師 生理学,	1,100 (継続)	330	肺動脈性肺高血圧症におけるHippoシグナルの病態生理学的意義の解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (基金)	松井卓哉 医学部講師	700 (継続)	210	肺腺がん治療を指向した新規カルバズールアルカロイドの制御系の解析と治療薬の開発
〃	伊藤秀明 医学部講師	1,200 (継続)	360	粘表皮癌におけるΔNp63陽性細胞先導による分子浸潤メカニズムの解明
〃	中村律子 医学部講師	1,100 (継続)	330	乳管形成および早期乳癌浸潤阻害における分子機構の解明
〃	山崎達也 医学部講師	900 (継続)	270	トル様受容体RP105特異抗体を基盤とした遺伝子ワクチンアジュバントの開発
〃	笠井謙次 医学部教授	900 (継続)	270	新規ユビキチン酵素活性化因子ENTREPによるPD-L1修飾と腫瘍免疫制御機構の解明
〃	荒井潤 医学部准教授(特任)	1,200 (継続)	360	モノクローナル抗体を用いた自然免疫の賦活化による新規抗腫瘍治療法の開発
〃	藤内玄規 ALS治療研究開発部門助教	1,300 (継続)	390	ALSにおける老化によるタンパク質品質管理機構の発現変化と病態への影響
〃	陸加雄一 加齢医学研究所講師	900 (継続)	270	神経変性疾患におけるtau凝集とTDP-43凝集に共通した足掛かり分子の解明
〃	徳井啓介 脳卒中センター講師	1,400 (継続)	420	神経・筋オルガノイドを用いた運動ニューロン疾患の病態解明
〃	道勇学 医学部教授	1,400 (継続)	420	疾患iPS細胞を用いた筋萎縮性側索硬化症の効率的な病態解析・創薬基盤の構築
〃	山口奈緒子 医学部准教授	1,300 (継続)	390	うつ病モデルにおけるストレス性交感神経反応：HPA系による負の制御はあるか？
〃	下平政史 医学部教授(特任)	700 (継続)	210	肺動静脈奇形に対する新たな塞栓術：内膨潤型ハイドロコイルによる標準治療の確立
〃	鈴木孝太 医学部教授	800 (継続)	240	時代・世代を超える健康～リアルワールドデータを用いたDOHaDの疫学的検討
〃	奥村彰規 医学部特別研究助教	1,200 (継続)	360	B型肝炎ウイルス感染成立に必要な肝細胞内リン酸化シグナル経路の解明
〃	鬼無洋 医学部准教授(特任)	1,400 (継続)	420	過剰塩分摂取に起因するCKDにみられる炎症の全身臓器障害の病態解明
〃	小松孝行 客員教授	1,000 (継続)	300	モノネガウイルスに保存された抗インターフェロン機構の解明と治療薬の研究
〃	三嶋廣繁 医学部教授	700 (継続)	210	腸内細菌が産生する脂肪酸によるウイルス性呼吸器感染症の制御とそのメカニズム解析
〃	石山宏平 医学部准教授(特任)	1,300 (継続)	390	ヒト乳歯歯髄幹細胞を用いた隣島オルガノイドによる画期的隣島移植プロトコルの開発
〃	大石大部 医学部助教	800 (継続)	240	重症熱傷における血管透過性亢進機序の解明－細胞間接着分子クローディングの解析－
〃	高橋伸典 医学部教授	1,000 (継続)	300	ヒアルロン酸レセプターCD44の断片化阻害による、関節軟骨変性抑制効果

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (基金)	佐々直人 医学部 泌尿器科学, 教授	900 (継続)	270	人工知能を用いた腎がんの多様性と腫瘍微小環境を腫瘍生検とCTから予測する研究
〃	馬嶋剛 医学部 泌尿器科学, 准教授	800 (継続)	240	MRIによる新規尿道血流測定法の開発と術後尿失禁の病態解明
〃	巨島文子 客員研究員	1,200 (継続)	360	ヒト嚙下筋の組織学的検討-多施設共同研究によるサルコペニアの嚙下障害の病態解明
〃	林寿来 医学部 生理学, 講師	1,000 (継続)	300	細胞外小胞による網膜保護作用とその分子機序の解明
〃	古川洋志 医学部 形成外科学, 教授	1,100 (継続)	330	リンパ節のマイクログラフトの実現化に向けた基礎的研究
〃	菱田朝陽 医学部 公衆衛生学, 教授	1,400 (継続)	420	ゲノム情報と血中バイオマーカー統合による消化器・肺がんリスクモデルの構築
〃	川合紗世 医学部 公衆衛生学, 講師	1,100 (継続)	330	行政主導の若年者向けピロリ菌感染対策による胃癌予防プログラムの検討
〃	佐藤ゆか 名誉教授	500 (継続)	150	新興感染症パンデミック初期段階における看護師のエンパワー促進要因とプロセス
〃	伴野勸 医学部 感染・免疫学, 助教	1,100 (継続)	330	奇数鎖脂肪酸による快ストレス誘導依存的な抗炎症作用機序の解明
〃	仙石昌也 医学部 物理学, 教授(特任)	800	240	作成プロセスから見たレポートライティング教育の評価手法に関する研究
〃	河合聖子 医学部 医学教育センター, 講師	800	240	医学教育における新たな学修支援体制の確立を目指した探索的探究
〃	緒方良至 客員研究員	1,000	300	ストロンチウム収着剤を用いた環境水中の放射性ストロンチウム迅速分析法の開発
〃	兵頭寿典 医学部 生化学, 准教授(特任)	1,000	300	高効率・高精度を両立した新規ゲノム編集法TPN法の更なる効率向上を目指す特性解析
〃	都築豊徳 医学部 病理診断学, 教授	2,600	780	前立腺導管内癌における, 導管内及び浸潤癌細胞の空間的トランスクリプトーム解析
〃	鈴木進 研究創出支援センター 教授(特任)	1,100	330	がん局所におけるTreg免疫抑制機序に基づく新たなTreg標的がん免疫療法の開発
〃	宮田淳 医学部 精神科学, 教授	1,400	420	MRIと脳波による統合失調症とてんかん性精神病の皮質病態・E/Iバランスの解明
〃	藤井公人 医学部 外科学(乳腺・内分泌外科), 准教授	1,000	300	乳癌組織の電気特性の解明と, それを予備知識としたマイクロ波画像化技術の確立
〃	倉橋宏和 医学部 小児科学, 講師	1,100	330	MYRF遺伝子による可逆性大脳白質障害と発熱時異常言動の病態解明
〃	竹下覚 医学部 周産期母子医療センター, 講師	1,300	390	SGA児の大脳皮質構造異常とトロンボエチンによる神経予後改善を目指した治療戦略
〃	高村祥子 医学部 感染・免疫学, 教授	1,000	300	劇症肝炎を制御するTLR 4 賦活化機構の解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (基金)	安藤博彦 医学部 内科学(循環器内科),教授(特任)	1,800	540	若年性心筋梗塞の一次予防策確立に向けた実装研究
〃	石本卓嗣 医学部 内科学(腎臓・リウマチ膠原病内科),教授	1,300	390	腎疾患におけるlncRNAの役割の解明と新規治療法の開発
〃	伊藤恭彦 医学部 特命教授	1,400	420	内皮細胞Glycocalyx特にヒアルロン酸に着目した腎疾患の病態解明と臨床応用
〃	高見昭良 医学部 内科学(血液内科),教授	1,300	390	NKG 2D 3'UTR miR-1245結合領域遺伝子改変高活性型NK細胞の作製と応用
〃	神谷英紀 医学部 内科学(糖尿病内科),教授	1,500	450	糖尿病性多発神経障害におけるグルコース応答性ATP感受性Kチャネルの役割の解明
〃	永井尚子 分子医学研究所 助教	1,200	360	脳へのレプチン送達制御におけるヘパラン硫酸機能の解明
〃	中村二郎 名誉教授	1,000	300	糖尿病・前糖尿病状態における腸管神経系障害が迷走神経活動と腸管糖新生に及ぼす影響
〃	野田貴幸 薬剤師 薬剤師	1,500	450	ヒト化マウスを用いたドナー特異的抗体産生核酸の同定・機能解明と診断治療への応用
〃	尾関直樹 医学部 呼吸器外科,准教授(特任)	800	240	サルコペニア合併肺癌に関わる炎症・免疫制御機構の解析
〃	尾崎将之 医学部 救急集中治療医学,准教授	1,100	330	補体制御因子発現の変化に着目したSTEC-HUSにおける補体活性化機序の解明
〃	伊藤英治 医学部 頭蓋底外科センター,准教授	1,600	480	難治性髄膜腫におけるがん免疫微小環境の解明
〃	若尾典充 医学部 整形外科,准教授	1,200	360	深層学習を用いた骨粗鬆症性椎体骨折診断および個別化治療プログラムの開発と検証
〃	寺嶋祐貴 医学部 メディカルセンター,助教	2,100	630	しびれ感の客観的評価としての新たな電気生理学的検査法に関する検討
〃	渡辺員支 医学部 産婦人科学,教授	1,000	300	妊娠高血圧腎症妊婦における腎障害の病態解明と将来の慢性腎不全発症リスクの検討
〃	各務秀明 医学部 歯科口腔外科学,教授(特任)	1,300	390	アノキス抑制と自己組織化による高機能「bioartificial living bone graft」の開発
〃	菊地正悟 名誉教授	1,100	330	便中抗原検査による中学生のピロリ菌検診一次検査の可能性
〃	橋本茜 看護学 臨床実践看護学,講師	700	210	ヒューマンケアリング理論を基盤とした救急看護師メンタルヘルスケアプログラムの開発
〃	林さえ子 看護学 成人看護学,准教授	1,300	390	前立腺がん治療に伴う性機能障害の苦悩：要因の解明と看護の新たな道
〃	山本恵美子 看護学 基礎看護学,准教授	1,000	300	介護安全に向けた多職種連携教育-ポジティブアプローチによる組織支援モデルの開発
〃	尾川貴洋 医学部 リハビリテーション医学,教授	1,900	570	サルコペニア高齢患者の筋肉量変化とマイオカイン動態に関する研究

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
基盤研究(C) (基金)	榑原伊織 医学部講師	1,300	390	エピゲノムを介した運動誘導性の骨格筋ファイバータイプ制御機構の解明
〃	小松紘司 医学部講師	2,100	630	オレイン酸が卵母細胞のミトコンドリア機能に及ぼす影響とその作用メカニズムの解明
〃	梅村朋弘 医学部講師	1,000	300	バングラデシュのデルタ地帯に潜む水と煙の健康問題：台所からのアプローチ
挑戦的研究(開拓) (基金)	丸山健太郎 理学部教授	5,000 (継続)	1,500	腸管内RNAによる大腸癌進展調節機構の解明と応用
挑戦的研究(萌芽) (基金)	武内恒成 医学部教授	1,500 (継続)	450	損傷神経機能と感覚受容を回復させるシナプスコネクとAI機械学習解析系の開発
若手研究 (基金)	小川実加 医学部講師	600 (継続)	180	血友病関節症の解明と新規治療法開発：骨芽細胞, MSC, メトホルミンに着目して
〃	塩入達政 分子医学研究所 助手	900 (継続)	270	I型アレルギー反応の決定的セルグリシン：肥満細胞分泌顆粒への輸送機構
〃	茂本咲子 看護学部教授	400 (継続)	120	「子どもの育ち」に着目した低出生体重児と親の相互作用を支える看護モデルの創案
〃	永沢亮 医学部助教	900 (継続)	270	微生物のコロニー形成可否を決定する因子の解明
〃	三岡裕貴 医学部講師	300 (継続)	90	静脈弁の機能に着目した一次性下肢静脈瘤予防法の開発
〃	山口真 医学部 腎臓・リウマチ膠原病内科准教授(特任)	800 (継続)	240	ANCA関連血管炎におけるグリコカリクスをバイオマーカーとした新規治療戦略の確立
〃	堀尾知弘 医学部講師	1,000 (継続)	300	ヘムオキシゲナーゼ1遺伝子多型ゲノム編集造血幹細胞による生体防御機構の網羅的解析
〃	大橋禎史 整形外科部助教	1,100 (継続)	330	解糖系阻害剤は関節滑膜炎の抑制、関節軟骨保護のための新規治療薬となり得るか？
〃	单西瑠 医学部助教	900 (継続)	270	Cadaveric investigation of the morphological and mechanical characteristics of aponeurosis on the mechanism of muscle strain injury
〃	西須大徳 医学部 運動療育センター助教	600 (継続)	180	神経機能評価による三叉神経痛・三叉神経ニューロパチーの治療予測の確立
〃	高橋礼子 災害医療研究センター 講師	800 (継続)	240	大規模災害時の医療機関でのライフライン途絶に対する『籠城支援』教育アプリの開発
〃	大塚俊 医学部講師	500 (継続)	150	身体運動や加齢に対する深筋膜の変化とその機序の解明
〃	陸美穂 医学部助教	1,600 (継続)	480	新規転写抑制因子teashirt homolog 2 (TSHZ2) のスプライシング異常と病理診断への活用
〃	吉本隆明 医学部 精神神経科助教	1,100 (継続)	330	心理課題を用いた機能的MRIによる統合失調症における幻聴の神経基盤の解明
〃	成田晶子 医学部助教	1,000 (継続)	300	ハイドロゲル特性を活用した薬剤溶出能を有する血管塞栓コイルの開発

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
若手研究 (基金)	田中博之部 内科学(呼吸器・アレルギー内科), 准教授	1,400 (継続)	420	肺胞マクロファージ解析による肺胞蛋白症の病態進行機序の解明
〃	森田奈央子部 感染症・免疫学, 助教	1,100 (継続)	330	ヒトRSウイルスの病原性とインフラマソーム活性化機構
〃	三浦絵美梨部 内科学(糖尿病内科), 助教	1,500 (継続)	450	クローン性造血と糖尿病性神経障害
〃	篠原健太郎部 消化器外科, 助教	600 (継続)	180	ロボット支援下手術技術向上における同期模倣学習の有用性についての検討
〃	齊藤卓也部 外科学(消化器外科), 准教授(特任)	1,000 (継続)	300	血液中循環癌細胞を用いた新しい食道癌・膵癌の術前化学療法モニタリングの確立
〃	川口礼雄部 脳神経外科学, 講師	900 (継続)	270	慢性硬膜下血腫術後のアポトーシス活性化機序の解明と新規治療法の確立
〃	森一直部 大学院NP部, 看護師	900 (継続)	270	診療看護師(NP)と特定行為研修修了者の協働実践ケアモデルの構築
〃	名仁澤英里部 解剖学, 助教	1,200 (継続)	360	超早期NASH病態モデルを用いた疾患発症メカニズムの解明
〃	福重香部 解剖学, 講師	1,200	360	生理活性ガス含有ナノ気泡による効率的な再生医療用細胞の培養技術構築
〃	赤木明生部 加齢医学研究所 加齢医学研究所 神経iPS細胞研究部門, 助教	900	270	孤発性Creutzfeldt-Jakob病の異常プリオン蛋白の局在と動態の解明
〃	小野寺一成部 加齢医学研究所 神経iPS細胞研究部門, 助教	1,800	540	転写制御異常から迫る球脊髄性筋萎縮症の病態解明
〃	藤田貢平部 医学精神科学, 助教	2,300	690	聴覚誘発電位を用いたECT治療の評価
〃	井上匡央部 内科学(肝胆膵内科), 准教授	1,000	300	膵癌に対する内視鏡的不可逆電気穿孔法を基軸とした新規低侵襲治療法の開発
〃	浅井信博部 医学臨床感染症学, 准教授(特任)	1,300	390	腸内細菌叢由来の代謝物解析によるRSウイルス感染症の機序の解明と新規治療法の開発
〃	玉置優貴部 医学解剖学, 助教	1,400	420	肝細胞移植後の生着と肝機能回復に関わる因子の解明: 肝細胞移植の適応拡大を目指して
〃	苛原隆之部 医学救急集中治療医学, 准教授(特任)	1,500	450	重症患者に対する急性期栄養療法における有効な治療的介入の探索
〃	坪井孝太郎部 医学眼科学, 助教	1,200	360	In vivoイメージングと組織学的解析による網膜新生血管発生機序の解明
〃	国村彩子部 医学循環器内科, 講師	1,400	420	体組成評価指標としてのアディポカイン, マイオカインと冠動脈疾患予防への応用
〃	篠壁多恵部 医学公衆衛生学, 講師	700	210	食物繊維・脂肪酸摂取や遺伝子多型が腹部肥満に与える影響
〃	板津良部 看護学基礎看護学, 助教	500	150	ICUにおける薬剤耐性菌MRSA持込に関する危険因子の多施設研究と伝播予防策の構築

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
研究活動スタート支援 (基 金)	丸 谷 紗 穂 看護学, 助教 性看護学, 助教	1,100 (継続)	330	生後1か月の第一子を育てる父親の体験-夜間の睡眠に着目して-
〃	川 越 隆 医学, 講師 衛生学, 講師	1,000 (継続)	300	足操作による視覚認知・運動機能トレーニングが高齢者の認知・身体機能に及ぼす影響
研究成果公開促進費 (補 助 金)	武 内 恒 成 医学, 教授 生物化学, 教授	500	0	失われた機能を再生させる! -再生医療とは何だろう? 2024

- ・令和6年7月1日時点の情報を掲載。
- ・研究種目及び課題番号順にて記載。
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載。
- ・「交付申請書」及び「支払請求書」を基に作成。
- ・令和6年7月までの転入転出を含む。
- ・基金については、今年度請求額を記載。
- ・挑戦的研究及び研究活動スタート支援（新規）は交付決定次第記載予定。

令和6年度厚生労働科学研究費・ 厚生労働行政推進調査事業費補助金交付決定

令和6年度厚生労働科学研究費・厚生労働行政推進調査事業費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

(金額単位：千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
慢性の痛み政策研究事業	井 上 真 輔 医学部 メディカルセンター, 准教授	7,700	2,300	就労制限を来たした慢性疼痛患者の就労支援に寄与する多角的包括的研究
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	神 谷 英 紀 医学部 内科学(糖尿病内科), 教授	3,810	1,140	糖尿病性合併症の評価法・管理法の確立
難治性疾患政策研究事業	曾 根 淳 加齢医学研究所 講師	4,000	1,200	我が国における神経核内封入体病患者の実態調査および、診療ガイドライン作成に向けた調査研究
難治性疾患政策研究事業	奥 村 彰 久 医学部 小児科学, 教授	4,200	1,260	早産児ビリルビン脳症のリスク因子に着目した診療指針の改訂と包括的診療体制の確立
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	西 原 真 理 医学部 疼痛緩和外科, 教授(特任)	3,900	1,100	HPVワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査とその対応方法に関する研究
慢性の痛み政策研究事業	牛 田 享 宏 医学部 疼痛医学, 教授	4,700	1,300	痛覚変調性疼痛を有する慢性疼痛患者の心理社会的背景の分析と社会復帰・居場所づくりを推進する研究
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	三 鴨 廣 繁 医学部 臨床感染症学, 教授	5,700	750	梅毒をはじめとする性感染症に関する実態把握及び対策の立案や評価に資する研究

- ・令和6年7月1日時点の情報を掲載。
- ・課題番号順にて記載。
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載。
- ・「交付申請書」を基に作成。

本学講座等の主催による学会等

【学会名】

・第66回日本小児神経学会学術集会

【開催日】

令和6年5月30日(木)～6月1日(土)

【会長等】

奥村 彰久

第66回日本小児神経学会学術集会

小児科学講座・教授 奥村 彰久

令和6年5月30日(木)から6月1日(土)の3日間、名古屋国際会議場にて、第66回日本小児神経学会学術集会を開催しました。本学術集会は、「Child Neuro 2024 in Nagoya」の名称で、第23回乳幼児けいれん研究会国際シンポジウムと同時開催しました。

テーマは「From Molecules to Mind」とし、小児神経学の深遠さと幅広さを表現しました。本学術集会では、参加者の知識や知見の向上を図るだけでなく、参加者間の交流も促進することを目指し、現地参加を重視したハイブリッド形式にて開催しました。最終的な参加登録者は2,600名以上に達し、内2,000名以上が現地に来場しました。

多くの招待講演、特別講演、教育講演が行われ、充実したシンポジウムが開催されました。更に、一般演題にも多数の応募がありました。ポスターセッションでは軽食を提供し、ざっくばらんに討論が行われました。各会場は大変賑わい、参加者にはご満足いただけたかと思います。

本学術集会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援をいただきました。おかげさまで、大きなトラブルもなく無事に学術集会を終えることができました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

😊Smile～スマイル～😊

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

看護部

令和6年4月1日(月)にSCU(脳卒中ケアユニット)が12B病棟内に造設され、運用が開始されました。脳卒中センターを主診療科とし、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の患者さんを対象としており、病床数は6床あります。SCUの半数の看護師は12B病棟から配置異動したため、専門性の高い看護の提供と継続を可能としています。

また、脳卒中の患者さんはEICUやHCUに緊急入院することもあり、円滑に患者さんの受け入れができるように他病棟と連携しています。SCUはモニタリング機器類も整備され、看護体制は3対1でユニット内に看護師が常駐しています。12B病棟の看護師長がSCUを兼務し、看護主任1名が配置されています。私たちは患者さんが状態変化した際はすぐに対応できるよう観察を行っています。更に、看



SCUスタッフ集合写真

護師は患者さんが早期に日常生活へ復帰できるように、他職種と連携し適切な医療の提供、早期リハビリテーションの開始、退院後の生活を見据えた援助を行っています。

薬剤部

薬剤部は、病院の中で患者さんの薬物療法を担当しており、患者さんの健康と安全をサポートしています。薬剤部の業務内容をご紹介します。

病棟業務は、入院患者さんの持参薬、副作用・薬剤アレルギー歴、服薬状況、効果や副作用を確認し、患者さん一人ひとりに最適な薬物療法を提供しています。

内服調剤業務は、患者さんの服薬状況を考慮した調剤を実施します。一部の患者さんには一包化調剤を行い、飲み忘れや飲み間違いを防止しています。

注射調剤業務は、腎機能などの患者情報を確認し、配合変化に注意しながら手技ごとにトレイにセットして病棟に払出しています。

DI業務（医薬品情報）は、お薬に関する情報の収集・評価・提供を行います。医療スタッフからの



調剤室の様子

問い合わせにも対応します。

チーム医療は、医療安全や感染制御、化学療法、緩和、栄養などの専門領域において、薬剤師が積極的に参画し、安全で効果的な薬物療法を提供しています。薬剤部は患者さん一人ひとりに最適な薬物療法を提供するために日々努力しています。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

保健管理センター規程の一部改正

愛知医科大学保健管理センター規程の一部が改正され、センターの事務担当部門が整理されました。

施行日は令和6年8月1日

管理職規程の一部改正等

教育職員における管理職及び管理職手当に関し必要な事項を定めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和6年6月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学管理職規程
- ・管理職手当に関する細則

安全衛生管理組織規程の一部改正

学校法人愛知医科大学安全衛生管理組織規程の一部が改正され、産業医の選任方法等が改められました。

施行日は令和6年8月1日

パート職員就業規則の一部改正

学校法人愛知医科大学パート職員就業規則の一部が改正され、現状の実態に合わせて、パート職員等の就業に関する事項が改められました。

施行日は令和6年5月1日

アドミッションセンター設置に係る関係規則の整備

大学附属施設として、新たにアドミッションセンターを設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和6年9月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学アドミッションセンター規程
- ・愛知医科大学アドミッションセンター運営委員会規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学学則

内部質保証に関する規程の制定等

本学が取り組む内部質保証の方針，体制等に関し必要な事項を定めるため，以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和6年5月20日

【新規制定】

- ・愛知医科大学内部質保証に関する規程

【廃止】

- ・愛知医科大学自己点検・評価委員会規程

看護学部ユニフィケーション推進委員会規程の制定

看護学部と看護部とのユニフィケーション事業を推進し，社会が求める良質な看護師を恒常的に養成していくため，愛知医科大学看護学部ユニフィケーション推進委員会規程が制定されました。

施行日は令和6年7月9日

臨床倫理コンサルテーションチーム要綱の一部改正

愛知医科大学病院臨床倫理コンサルテーション

チーム要綱の一部が改正され，実施記録の様式が追加されました。

施行日は令和6年6月1日

放射線障害予防規程の一部改正等

原子力規制庁による立入検査時の指摘に対応するため，以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和6年6月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院放射線障害予防規程
- ・愛知医科大学病院特定放射性同位元素防護規程

メディカルセンター通所リハビリテーション事業所運営規程の一部改正

愛知医科大学メディカルセンター通所リハビリテーション事業所運営規程の一部が改正され，令和6年度介護報酬改定に対応するために必要な事項が整備されました。

施行日は令和6年6月1日

編 集 後 記

☆ コロナ禍において中止していたわくわく体験リモツアーズは、13頁でご紹介のとおり参加者を4年ぶりに受け入れることができました。参加者の皆さんはドクターヘリ見学の後、救急医療の現場で働くドクター・ナースの体験談を聞き、楽しみながら学習されていました。

愛知医科大学と日本水難救済会は、洋上救急協力病院協定書締結式を挙行了しました（関連記事10頁）。洋上における速やかな人命救急活動を強化し、地域への貢献を目指して参ります。

【総務広報課】

学報の送付を辞退される方は、総務広報課までご連絡ください。



X



Instagram

愛知医科大学公式SNS (@aichi_med_u)
では大学・病院の最新情報を発信中です。

愛知医科大学学報 第175号

発行年月日 令和6年7月31日

発 行 人 学校法人 愛知医科大学

発 行 人 祖父江 元

編 集 人 羽根田 雅巳

連 絡 先 〒480-1195

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

愛知医科大学事務局総務部総務広報課

☎ (0561) 62-3311 (代表)

☎ (0561) 62-1063 (直通)